

会津版 スマホ・SNS検定

こんな親になりたい！
めざせスマホ・SNS活用上級者

検索

目次

ステージ別設問

検索

ステージ1

(幼・保・こども園～小学校低学年
のお子さんをもつ保護者対象)

検索



ステージ2

(小学校中・高学年のお子さんをもつ
保護者対象)

検索

ステージ3

(中学生のお子さんをもつ保護者対象)

検索

会津教育事務所 総務社会教育課
(地域家庭教育推進会津ブロック会議)



こんな親になりたい!

スマホ・SNS活用上級者



スマホを管理しています

初めて子どもにスマホを与えるときは、話し合ってルール作りをします。フィルタリングもかけ、※ペアレンタルコントロールで、スマホの中身を管理します。子どもが何をしているか知っています。
※ペアレンタルコントロールは、子どものスマホやタブレット、ゲーム機の利用状況を保護者が把握したり、安全管理を行ったりする仕組みです。

コミュニケーションを重視します

食事中・外食中・会合ではスマホをいじりません。顔を見て会話を楽しみ、人と人とのコミュニケーションを大切にします。

スマホを上手に使います

もちろん親もスマホを使います。調べ物・連絡等、メリハリを付けて、ダラダラ使いません。

生活習慣は乱しません

「早寝・早起き・朝ごはん」で生活リズムを整えます。

子どもと一緒に〇〇します

忙しいからといって子どもにスマホを預け、スマホで子守をしません。忙しい時こそ子どもと一緒に料理、掃除、洗濯物干しなどの家事をします。子どもへ一言「ありがとう」も忘れずに。子どもの自立にも役立ち、一石二鳥です。

趣味で自分を磨きます

自分の時間は、スマホやSNSだけで終わるのはもったいない。ジョギング・自転車・ヨガ・登山などアウトドアで健康づくりをします。音楽・読書・絵画などで新しい自分・新しい世界を発見します。



まずは大人がお手本に

スマホに振り回されません

スマホのメリット・デメリットを正しく知っています。フェイクニュースも見破れます。子どもにも正しい知識をきちんと教えてあげられます。

子どもにだけ要求しません

子どもが宿題や勉強をしているとき、隣でスマホをいじりません。読書などをして、子どもに寄り添い見守ります。家のルールに沿って子どもがスマホやSNSを利用できない時間は親も利用しません。

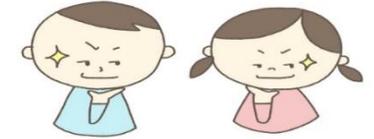
「スマホ・SNS活用上級者」をめざして今すぐクリック!

会津版 スマホ・SNS検定 検索





目次 ステージ別設問



	ステージ1 (幼・保・こども園・小学校低学年) 検索	ステージ2 (小学校中・高学年) 検索	ステージ3 (中学生) 検索
1	スマホ購入する？ しない？	スマホ購入する？ しない？	スマホ購入する？ しない？
2	子どもがぐずったときの対処法	引きこもって オンラインゲーム	どうする？ スマホ紛失
3	どんなアプリをダウンロードすればいいの？	フィルタリングって何？	ながらスマホの危険性
4	スマホで勝手に動画視聴！？	ネットいじめ	生活習慣の乱れ
5	隠れて夜中にゲーム！？	親同士のスマホトラブル	SNS被害
6	ゲームアイテムで課金トラブル！	見分けられる？ フェイクニュース	スマホ依存とルール
7	生活習慣の乱れ	ゲーム・買い物での高額請求	個人情報流出
8	親の子への対応は？	生活習慣の乱れ	ネットいじめ
9		SNS被害	親はスマホの使い方分かりますか？
10		作ったルールを守らない！？	スマホのメリット・デメリット

ステージ1

Q1 「スマホを買って」
と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか？



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



**① テスト等の結果次第のご褒美で
買ってあげる。**

**② なぜ必要なのかを話し合っ
て決める。**

**③ お金がないなどの理由を伝え、
買わない。**



ベストアンサーは

2

次へ

解説

Q1 「スマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか？

- ① テスト等の結果次第のご褒美で買ってあげる。
- ② なぜ必要なかを話し合っ
て決める。
- ③ お金がないなどの理由を伝え、
買わない。



ベスト
アンサーは②

② 「なぜ必要で、どんなときに使いたいのか」など、目的や使い方を親子で納得するまで話し合うのがベストです。子どもに親が納得するような理由を述べさせてみてから決めるのも良いと思います。ただ単に「ゲームをしたいから」などという理由に対し、「ゲームだけなら大丈夫かな」と安易に与えてしまうのは避けましょう。通信ゲームによる長時間使用など、後々の生活習慣が乱れていくことも考えられます。

① モノやご褒美でつるのは、今後も「モノやご褒美を手に入れるために頑張る」と思うようになってしまいます。

③ 親がお金がないと言うのなら、祖父母に購入をせがんだり、自分でお小遣いを貯めれば購入しても良いという思考回路となったり、「自分のお金で購入したんだから、口出ししないで！」等、親が管理できなくなってしまうこともあります。



次へ

目次に戻る

ステージ1

Q2



スマホのアプリをダウンロードして子どもに与えます。どんなアプリをダウンロードすれば良いでしょうか。

[目次に戻る](#)

次へ



① 子どもの使いたいアプリを試してから、ダウンロードしてあげる。

② 親がアプリを選択してダウンロードする。

③ 親も子も共有できるアプリをダウンロードする。



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q2 スマホのアプリをダウンロードして子どもに与えます。どんなアプリをダウンロードすれば良いでしょうか。



ベスト
アンサーは③

③ 親子で共用できるアプリは、親自身も使い方や内容が分かり、安心できます。音楽や、知能ゲーム、地図アプリなどは脳や五感を使ったり、方向感覚や地図記号、地図の見方が分かったりなど、実際の社会で使えるのがおすすめです。散歩途中での不思議や感動シーンを撮影し、帰宅して子どもと調べたり、ファイリングしたりする撮影アプリもおすすめです。子どもと共に使い、視野を広げましょう。さらに、ゲームやアプリには「〇歳以上」という年齢区分マーク（レーティング）が表示されますので、「年齢に見合っているかどうか」を親が判断してあげましょう。

- ① 子どもの使いたいアプリを試してから、ダウンロードしてあげる。
- ② 親がアプリを選択してダウンロードする。
- ③ 親も子も共有できるアプリをダウンロードする。

② 親が選んで与えたアプリは、子どもにとっては興味のないものになる場合があります。子どもと話し合い有益なものを上手に活用しましょう。

① 子どもにせがまれたアプリを、無料お試しで内容を確認するのは良いことです。しかし、無料お試しではアプリの全貌を見ることはできません。進めていくうちに課金されることや、他のサイトのものも併用することが条件になるアプリもあります。事前に親がしっかりと情報を集め、判断することが大切です。子どもがどんなアプリを使い、何をしているか親がしっかりと把握しなければなりません。子ども任せはNGです。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ1

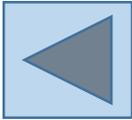
Q3



病院で、図書館で、公
共の場で子どもが泣いて
ぐずって大変です。
家事中に子どもが泣い
て大変です。こんなとき
どうしますか？

[目次に戻る](#)

次へ



① 子どもを抱っこしたり、手をつないだりしてスキンシップをとり、話を聞く（話をする）。

② 子どもの好きなお菓子やおもちゃ、絵本を常備しておく。

③ 静かにさせるために「YouTube」やテレビ等を見せる。



ベストアンサーは

1

次へ

解説

Q3 病院で、図書館で・・・公共の場で子どもがぐずって泣いて大変です。家事中に子どもが泣いて大変です。こんなときどうしますか？



ベスト
アンサーは①

① メディアよりも何よりもおうちの人の温かい感触、言葉が子どもの安心感と満足感につながります。また、十分な時間を取って話したり聞いたりするも効果的です。一緒に散歩する、遊ぶなど外に連れ出して思いっきり体を動かしてみるのもよいでしょう。

② 一見有効そうに見えますが、お菓子を食べ終わったり、本を読み終わったりすると再度ぐずったり泣き出したりするなど、一時的な手段に過ぎません。

③ 幼児期からスマホ等の画面を長時間注視すると、ブルーライトや電磁波により目や脳に悪影響があると医学的に報告されています。子どもは静かになりますが、ぐずったり泣いたりすれば「YouTube」やテレビが見られることを学習してしまい、繰り返すようになります。

なぜ今泣くの？ 時間がないのに……。そう思っている親の気持ちが子どもに伝わり、子どもは逆に不安になることがあります。思い切って子どものために時間を取って対応することが、子どもの満足につながり、心の底から子どもを落ち着かせることになります。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)



ステージ1



Q4

子どもが勝手に親のスマホをいじり、不適切動画を見ていました。どう対処すれば良いでしょうか。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① スマホのパスワード認証、指紋認証、顔認証などで管理をする。

② 親のスマホにもフィルタリングを設定しておく。

③ 取り上げる。使わせない。



ベストアンサーは

②

①もあり

次へ

解説

Q4 子どもが勝手に親のスマホをいじり、不適切動画を見ていました。どう対処すれば良いでしょうか。



ベスト
アンサーは②

② フィルタリングは、有害な情報や間違いアクセスによるトラブルから、子どもを守る機能です。販売店で「子どもも使用する」ことを伝え、フィルタリングの設定をしてもらいましょう。大人が使用する際は、フィルタリングの設定は、簡単にON, OFFすることができます。契約の切れた端末にもフィルタリングをしてから子どもに与えましょう。通話機能はありませんが、Wi-Fi環境のあるところではネット利用ができます。

- ① スマホのパスワード認証、指紋認証、顔認証などで管理をする。
- ② 親のスマホにもフィルタリングを設定しておく。
- ③ 取り上げる。使わせない。

① 子どもが親のスマホを借りて使っているときに、親のパスワードを変更設定してしまうことがあります。親は普段、指紋や顔で認証する方が速くて便利なので、パスワード認証することが少なくなってきました。パスワードを変更されたことに気づかないこともあります。親は子どもが使用する場合も想定してスマホの管理の仕方を見直しましょう。

③ 取り上げたり、使わせなかったりするのとは子どもにとっては逆効果です。家で使えないなら、友達の家で使わせてもらう等の行動に出ます。さらには友達のスマホを貸してもらうことによりトラブルになることもあります。規制することより使い方について話し合しましょう。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ1

Q5

寝る前にスマホをリビング
グに置いておいたのに、子
どもが夜中に布団の中でス
マホでゲームをしていまし
た。親はどうすればよいで
しょうか。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① スマホを取り上げて叱る。

② 毎日親子で一緒に寝るようにする。

③ とりあえず就寝させ、翌日にスマホ利用等についてのルールを再確認し合う。



ベストアンサーは

③

②もあり

次へ

解説

Q5 寝る前にスマホをリビングに置いておいたのに、子どもが夜中に布団の中でスマホでゲームをしていました。親はどうすればよいでしょうか。

- ① スマホを取り上げて叱る。
- ② 毎日親子で一緒に寝るようにする。
- ③ とりあえず就寝させ、翌日にスマホ利用等についてのルールを再確認し合う。



ベスト
アンサーは③

③ 家庭で決めたルールを何度も繰り返し再確認することが大切です。子どもは忘れやすいので、ルールをリビングや子ども部屋など、目に付くところに張り出しておきましょう。また、睡眠の重要性について話をしても効果的です。

② 小さいうちには本の読み聞かせなどをしながら眠りにつくなどは、親の温もりが感じられ心が安定します。しかし、年齢が上がるにつれて一緒に寝る機会も減ってきます。親が隣にいないくても、自己管理ができるように生活習慣を整えていくことも必要になってきます。

① スマホを取り上げて就寝させれば、いったん事態は収まりますが、その日限りの対応で長続きしません。また、親がゲーム機をしっかりと管理することも重要です。子ども任せにしたり、管理が甘くなったりしていないか確認すると共に、親子でルール作りをしましょう。



[目次に戻る](#)

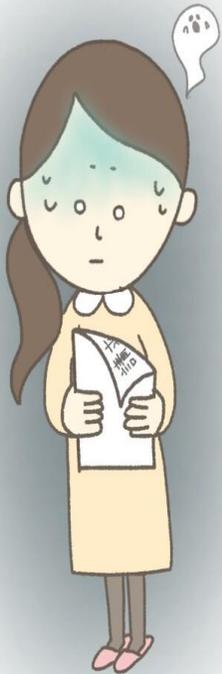
[次へ](#)

ステージ1



Q6

「無料」とうたっているオンラインゲームで子どもが遊んでいる間に、アイテムが有料であることに気付かず購入してしまっただため、高額の料金を請求されてしまいました。こんな時どうしますか？



[目次に戻る](#)

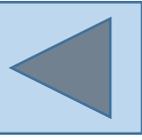
次へ



① 料金の支払いについて、消費生活センターや、アプリ運営会社に相談する。

② あきらめて、料金の支払いをする。

③ 未成年の契約なので、料金は支払わなくてもよい。



ベストアンサーは

①

②もあり

次へ

Q6 「無料」とうたっているオンラインゲームで子どもが遊んでいる間に、アイテムが有料であることに気付かず購入してしまったため、高額な料金を請求されてしまいました。こんな時どうしますか？



ベスト
アンサーは①

① 高額請求があった場合は、すぐに消費生活センターやクレジット会社、アプリ運営会社に連絡し、「未成年の子どもが勝手に課金した」ことを伝え、支払いの取り消しを申し出ましょう。全額返金、一部返金、返金されないなど様々なケースがあります。いずれにしても課金トラブルにならないための予防策が大切です。子どものスマホの利用状況を把握するために、ペアレンタルコントロールを活用しましょう。例えば、子どもがスマホでゲームをする場合、保護者のスマホで、子どもの日々のプレイ状況を確認したり、プレイする時間の長さや時間帯の調整、課金の制限等を行ったりすることができます。子どもの使用状況に応じて上手に活用しましょう。

- ① 料金の支払いについて、消費生活センターやアプリ運営会社に相談する。
- ② あきらめて、料金の支払いをする。
- ③ 未成年の契約なので、料金は支払わなくてもよい。

② 子どもにはまず、「課金とは何か」というところから話してみてもいいでしょうか。ゲーム課金すべてが悪いのではなく、課金したお金の出所が、親が働いて得たお金の場合は、「それっていいのかな？」と子どもに質問してみてください。子どもが親の承諾を得ず課金することは、親のお金を勝手に使うことと一緒であることを子どもに伝えて、今後の課金のルールについて親子で互いに意見を出し合い、子どもも納得できるように決めていきましょう。その使い方がふさわしいか、話し合ってみましょう。

③ 請求をそのままにしておくと利息が付きどんどん料金が膨らんでしまいます。まずは①のように連絡・相談をしましょう。



[目次に戻る](#)

次へ

ステージ1



Q7 ある日先生から、「最近眠そうにしている。外でもあまり遊ばなくなり、給食や弁当もあまり食べなくなった。」と電話がありました。



こんなときどうしますか？

[目次に戻る](#)

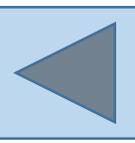
[次へ](#)



① 具合が悪いかもしれないので症状を確認して病院に連れて行く。

② 1日の行動を観察し、その原因を取り除くように親子で話し合って考える。

③ 2、3日休ませて、体調を回復させる。



ベストアンサーは

2

次へ

解説

Q7 ある日、先生から、「最近眠そうにしている。外でもあまり遊ばなくなり、給食や弁当もあまり食べなくなった。」と電話が来ました。こんなときどうしますか？



ベスト
アンサーは②

風邪等の症状もない場合には②のように何が原因であるのか観察する必要があります。1日の行動観察の中でスマホやネット利用の時には元気であれば、スマホやネット依存による影響が疑われます。ゲームを終わらせるタイミングが分からず長時間利用している場合は要注意です。生活習慣の乱れや睡眠不足は、健康や学習に様々な影響が出てきます。少しずつでいいので、週に1回、2回、1日置きと、早く寝て、翌朝“早起きトーク・運動”をするという生活習慣の改善を試みましょう。もちろん、子どもだけではできないので、親も一緒に行いましょう。いざというときに実力を発揮できなかったり体調を崩したりして後悔しないよう、自制する力を小さいうちから育てましょう。

- ① 具合が悪いかもしれないので症状を確認して病院に連れて行く。
- ② 1日の行動を観察し、その原因を取り除くように親子で話し合ってみる。
- ③ 2、3日休ませて、体調を回復させる。

①や③のように、念のため病気を疑い、病院で診察してもらうことも必要かもしれません。



[目次に戻る](#)

次へ

ステージ1

Q8 国立成育医療研究センターで行った親子関係のアンケートでは「家族といえるのがあまり楽しくない」「楽しくない」と回答した子どもが70%でした。
その理由は？

[目次に戻る](#)

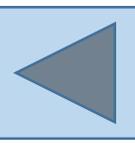
次へ



① 休日にインターネットを長時間使う親の割合が大きく、子どもと遊ばずに部屋に引きこもっているから。

② 親は、携帯電話やスマホを使用しながら私と話す。目を合わせて会話しないから。

③ 一緒に遊んでくれないし、怒ってばかりいるから。



ベストアンサーは

すべで

次へ

解説

Q8 国立成育医療研究センターで行った親子関係のアンケートでは「家族といるのがあまり楽しくない」「楽しくない」と答えた子どもが70%でした。その理由は？

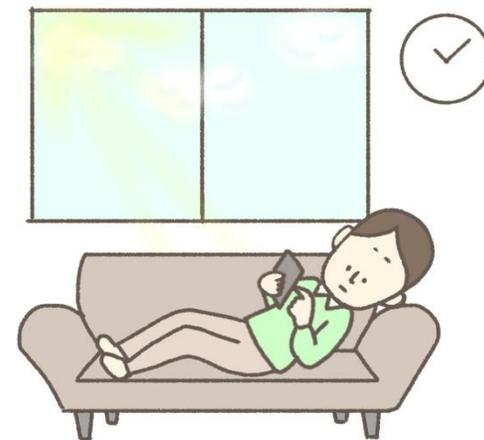


ベストアンサーは
すべてです

- ① 休日にインターネットを長時間使う親の割合が大きく、子どもと遊ばずに部屋に引きこもっているから。
- ② 親は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す。目を合わせて会話しないから。
- ③ 一緒に遊んでくれないし、怒ってばかりいるから。

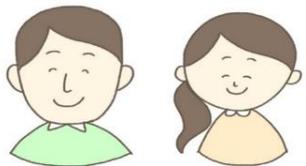
スマートフォン、タブレットはとても便利で画期的なツールです。アプリを通じてたくさんのコンテンツにアクセスできるので、新しいことを学ぶ機会を与えてくれます。しかし、一方では電車内や病院の待合室等でのスマホ使用率は90%以上という調査結果もあり、依存症になる大人も多いと言われています。幼い子どもを持つ親なら、子どもにスマートフォンなどの依存症になってほしくないと思っていることでしょう。スマートフォンを長時間使用しすぎると身体的影響だけでなく、学力が低下するという調査結果も出ています。

子どもに「スマホやゲームはダメ」と言う前に、親が自分自身を変えるよう努力し、親として子どもの模範となる姿を子どもに見せ、改善していくことの方が大切ではないでしょうか。子どもは親をよく見えています。親として成長するチャンスだと思い、「共育」を実践してみましょう。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



何問正解できましたか？



今後もスマホ・SNS活用上級者を目指しましょう

今回の検定問題の
解説を見る

検索

トップページに戻る

検索



続けて

ステージ 2

(小学校中・高学年のお子さんをもつ保護者対象)

ステージ 3

(中学生)

に挑戦する

検索

次へ



【参考著作物】

- ・内閣府・19年度青少年ネット利用環境調査(内閣府)
- ・内閣府「スマホ時代の子育て」悩める保護者のためのQ & A
(内閣府・内閣官房・警察庁・消費者庁・総務省・法務省・文部科学省・厚生労働省・経済産業省)
- ・インターネットトラブル事例集(総務省)
- ・未就学児の情報機器利用保護者向けセルフチェックリスト(子どもたちのインターネット利用を考える研究会)
- ・10歳頃までのお子様へのネット利用対策(安心ネットづくり促進協議会)
- ・スマホのある次代の子育てを考える(NPO法人e-LUNCH)
- ・ジュニアスマホ検定(静岡大学×カスペルスキー×NPO法人イーランチ)
- ・全国統一スマホデビュー検定(Y! mobile)
- ・未成年者の携帯電話・スマートフォン利用実態調査(情報セキュリティーメーカー デジタルアーツ社)
- ・スマートフォン用無料アプリNintendoみまもりSwitch(任天堂株式会社)

【作成】

- ・福島県教育庁会津教育事務所総務社会教育課
- ・地域家庭教育推進会津ブロック会議
- ・イラスト by かんけみなみ

当サイト「会津版 スマホ・SNS検定」に掲載のイラスト画像の無断転載・無断使用を固く禁じます。

[トップページに戻る](#)

ステージ2



Q1 「みんな持っているからスマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか。



[目次に戻る](#)

次へ



**① 自分でお金を貯めて買いなさい
と言う。**

**② あと2、3年したら与えるなど、
時期を明示して納得させる。**

**③ なぜ必要なのか、何がしたいの
か話し合う。**



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q1 「みんな持っているからスマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか。

- ① 自分でお金を貯めて買いなさいと言う。
- ② あと2、3年したら与えるなど、時期を明示して納得させる。
- ③ なぜ必要なのか、何がしたいのか話し合う。

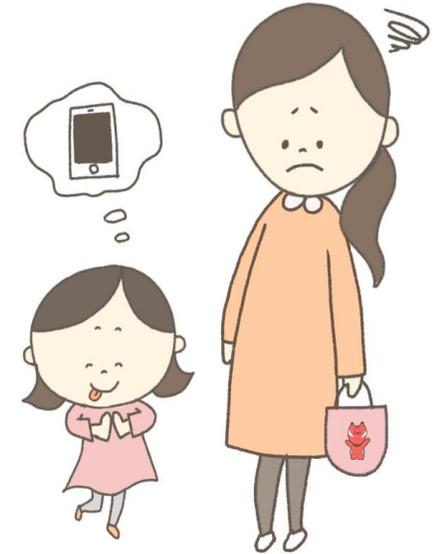


ベスト
アンサーは③

③ 「なぜ必要で、どんなときに使い、何がしたいのか」など、目的や使い方を親子で納得するまで話し合うのがベストです。子どもに親が納得するような理由をプレゼン（発表）させてから決めるのも良いと思います。ただ単に「LINEを使いたいから」などという理由に対し、「LINEは無料だし大丈夫だろう」と安易に与えてしまうのは避けましょう。LINEアプリの正しい使い方を知らなければ、後々トラブルになることは目に見えています。

① 親に負担をかけずに自分でお小遣いを貯めれば本体を購入しても良いと誤ってしまいます。契約や月々の使用料を払うのは親であることも教えるべきでしょう。「自分のお金で購入したんだから、口出ししないで！」と管理が難しくなるケースもあります。

② 「与える時期が早いだけ」と子どもが認識してしまいがちですが、与える時期が来るまでの間、スマホの使い方や危険性、ルール作りを行い、親子で十分に学習しておきましょう。

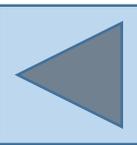


スマホ等は子どもだけでは契約できません。与えるのは親です！与えた責任が親にものしかかってきます。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ2



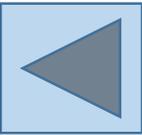
Q2

親の知らないところで
オンラインゲームをして
いるようです。部屋に引
きこもってばかりいて心
配です。親としてどう対
応しますか。



[目次に戻る](#)

次へ



**① 親子で決めたルールについて
再確認する。**

**② 取り上げてゲームやスマホを
やめさせる。**

**③ 一定の使用時間で電源OFFと
なる設定をする。**



ベストアンサーは

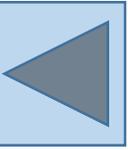
1

次へ

解説

Q2 親の知らないところでオンラインゲームをしているようです。部屋に引きこもってばかりいて心配です。親としてどう対応しますか。

- ① 親子で決めたルールについて再確認する。
- ② 取り上げてゲームやスマホをやめさせる。
- ③ 一定の使用時間で電源OFFとなる設定をする。



ベスト
アンサーは①

① スマホを与えると決めたのなら、親子できっちりとルール作りをしましょう。うやむやにしたり、ちょっとだけならなどと甘い管理するのはやめましょう。子どもは「この前は良かったのに」などと、親の対応の曖昧さを指摘しようとし、親も毅然とした態度が必要です。

② 取り上げたり、使わせなかったりするのは子どもにとっては逆効果です。スマホを探し回ったり、親のスマホをバレないように使ったりと、悪知恵を働かせるようになります。また、友達に借りることによってトラブルも生じます。規制することにより子どもの不満やイライラは強くなります。きちんと納得するまで、何が悪いのか、どうすれば良かったのか等、具体的に話し合しましょう。

③ 一見有効に見えますが、子どもは大人が思っている以上に、スマホを使いこなします。簡単に電源OFF機能を解除してしまいます。通信機器を使いこなす方法について子どもが情報交換し合い、その技術を身に付けています。そのスピードと技術は親がびっくりするくらいです。一時的な解決策であることを理解しておきましょう。※ペアレンタルコントロールするのも一つの良い方法です。

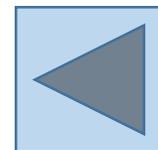
※ ペアレンタルコントロールは、子どものスマホやタブレット、ゲーム機の利用状況を保護者が把握したり、安全管理を行ったりする仕組みです。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ2



Q3



子どもがスマホを使用する際に、有害なサイトへのアクセスをブロックしてくれる「フィルタリング」について、正しく説明しているものを選びましょう。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① フィルタリングをかけると全てのサイトが見られなくなる。

② フィルタリングの設定や解除は購入店でも親でもできるが、購入時限りである。

③ フリーのWi-Fiを使うとフィルタリングが機能しない。

[目次に戻る](#)

次へ



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q3 子どもがスマホを使用する際に、有害なサイトへのアクセスをブロックしてくれる「フィルタリング」について、正しく説明しているものを選びましょう。



ベスト
アンサーは③

③ フリーのWi-Fiは、せっきくのフィルタリングの機能が使えなくなってしまう。子どもたちはその情報を知っています。ファーストフード店やコンビニに群がっているのはフィルタリング機能を外すためです。フリーWi-Fiは、たくさんの人が利用しているため、自分の情報が盗まれることがあることを子どもに教えましょう。



- ① フィルタリングをかけると全てのサイトが見られなくなる。
- ② フィルタリングの設定や解除は購入店でも親でもできるが、購入時限りである。
- ③ フリーのWi-Fiを使うとフィルタリングが機能しない。

① フィルタリングには年齢段階などに合わせたいくつかの種類があり、一部のサイトだけを使えるようにする「カスタマイズ」ができる機能もあります。上手にフィルタリングをかけることで、子どもに安心な情報を提供できます。また、フィルタリングをしたスマホは保護者が簡単にON・OFFできるので、保護者のスマホにも設定しておいた方がよいでしょう。フィルタリングの解約は保護者の同意が必要です。

② 保護者が不要と申し出た場合を除き、「青少年インターネット環境整備法」という法律で、18歳未満の青少年が使う携帯電話サービスには原則として購入店でフィルタリングを付けなければならないことになっています。なお、フィルタリングは何度でも設定・解除できます。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ2

Q4 自分の子どもが「ネットいじめ」の被害に遭っていることを知り、ネット上でこの悪口などの書き込みや、仲間はずれなどがあられるようです。親としてどう対応しますか？



[目次に戻る](#)

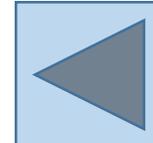
[次へ](#)



① 悪口が書かれた掲示板やアプリを削除する。

② 学校に相談し、相手の家庭に連絡して指導・謝罪してもらおう。ネット利用について学校で指導をしてもらおう。

③ 書き込まれた証拠をスクリーンショットで撮影して残し、掲示板やアプリの管理者に連絡して削除してもらおう。



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q4 自分の子どもが「ネットいじめ」の被害に遭っていることを知りました。ネット上の悪口の書き込みや、仲間はずれなどがあるようです。親としてどう対応しますか？



ベスト
アンサーは③

③ 2013年に制定された「いじめ防止対策推進法」では、学校等でいじめ対策を行うことを義務づけています。いじめにはネットいじめも含まれています。ネットいじめに遭った場合は、証拠を残すためにスクリーンショットを撮っておくことが大切です。量が多い場合は、その画面をスクロールしているところの動画を撮っておきましょう。

また、管理元に書き込みの削除を求めた場合はその日付けで削除されますが、以前に拡散されてしまっている場合の削除は難しいです。

- ① 悪口がかかれた掲示板やアプリを削除する。
- ② 学校に相談し、相手の家庭に連絡して指導・謝罪してもらう。ネット利用について学校で指導してもらう。
- ③ 書き込まれた証拠をスクリーンショットで撮影して残し、掲示板やアプリの管理者に連絡して削除してもらう。

① 子どものスマホの掲示板やアプリを削除しただけでは問題の解決になりません。一度アップされた言葉や画像は世界中に拡散されると言っても過言ではありません。最小限の拡散で食い止めるには管理元に連絡し、書き込みを削除してもらうことが必要です。

② 明らかないじめであることとして対応してもらうことは大切です。しかし、学校任せにするのではなく家庭でスマホの使い方やモラルについてしっかり話し合ひましょう。また、いじめに遭ったお子さんに寄り添いながら心のケアに努めることも大切です。



[目次に戻る](#)

次へ

ステージ2



**Q5 スポ少や習い事、PTAの委員
等で親同士のトラブルが多発
(SNSに勝手に写真をアップ
した、LINE外しがある等)し
ています。 どう対処しますか。**



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① ネットモラルについて学習する。やってはいけないルール等を親同士でしっかり話し合う。

② グループから退出する。関わらないようにして静観する。

③ アップされた写真は削除する。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)



ベストアンサーは

1

次へ

解説

Q5 スポ少や習い事、PTAの委員等で親同士のトラブルが多発（SNSに勝手に写真をアップした、LINE外しがある等）しています。どう対処しますか？



ベスト
アンサーは①

① 子どものスマホ問題の前に、親自身がスマホやSNSのモラルについて学びましょう。便利なアプリ等に目が行きがちですが、一つの行動が法に触れることもあります。また、スポ少やグループ等で、スマホやSNSを利用する際に、やってはいけないこと等についてしっかりと話し合い、ルール化しておくことも大切です。

② 退出することによってその状況からは逃れることができます。しかし、人と人とのつながりまで断つことのないように、顔を合わせて話す、伝える等のコミュニケーションをとることが大切です。

- ① ネットモラルについて学習する。やってはいけないルール等を親同士でしっかり話し合う。
- ② グループから退出する。関わらないようにして静観する。
- ③ アップされた写真は削除する。

③ 子どもの写真は悪用されやすいことをしっかりと親同士で共通理解を図りましょう。画像を合成されて、フェイク画像を作り上げられることもあります。アップしたサイトの管理元に削除を依頼しましょう。親の「楽しかった。かわいい。」などという理由で安易に子どもたちの画像をアップすることは犯罪につながるリスクがあることを理解しておきましょう。勝手に他人の顔写真等をネットに公開することは肖像権の侵害となります。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ2



Q6

子どもが、ネットで検索した嘘
(フェイクニュース) 情報をそのまま
信じてしまったり、そのために親
まの言うこともなかなか聞かなくなっ
てきました。ネット情報にだまされ
そうで心配です。子どもにどんな対
応をすればよいか正しいものを選び
ましょう。



[目次に戻る](#)

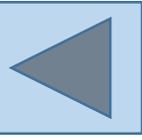
次へ



① 情報を提供してくれた人が正直な人かどうかを調べることを教える。

② 初めに発信した発信元を見極めるようにすることを教える。

③ ネット情報だけでなく、新聞やニュース等のSNS以外の情報と照らし合わせることを教える。



ベストアンサーは

③

②もあり

次へ

解説

Q6 子どもが、ネットで検索した嘘（フェイクニュース）情報をそのまま信じてしまいます。そのために親の言うこともなかなか聞かなくなってきました。ネット情報にだまされそうで心配です。子どもにどんな対応をすればよいか正しいものを選びましょう。



ベスト
アンサーは③・②

③ 虚偽のニュースがSNSで流され「大変だ！ みんなに教えなくちゃ！」と思ったときほど落ち着いて周りの大人に確認や相談するようにアドバイスをしましょう。また、その情報が正しいのかどうか新聞やTVで照らし合わせてみるように助言することも大切です。落ち着いて情報の真偽を確かめる態度を育てることが情報も信頼性も見極める力を育てることにつながります。

② フェイクニュースには、誹謗・中傷、相手をおとしめることを目的とした投稿を含むことがあります。子どもはすぐにフェイクニュースを信じてしまう傾向にあります。最初の発信元以外の人、その情報に感情等の尾ひれを付けて発信することが多いので信頼性があまりないことを教えましょう。

- ① 情報を提供してくれた人が正直な人かどうかを調べることを教える。
- ② 初めに発信した発信元を見極めるようにすることを教える。
- ③ ネット情報だけでなく、新聞やニュース等のSNS以外の情報と照らし合わせることを教える。



- ① 正直かどうかを調べる術がありません。外見で判断することや思い込みだけの判断はやめさせましょう。

※ 災害時にはフェイクニュースが流れることによって人々はパニック状態に陥り、救助活動に支障をきたします。このように、フェイクニュースの拡散は多くの人に思わぬ悪影響を与えることにつながる恐れがあることを確認しましょう。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ2



Q7

親に内緒で、祖父母のスマホを使って課金していたり、ゲームアプリ内のコインが実際の課金とは知らずに購入していたりした。

翌月にはゲーム会社から18万円の請求がきました。このとき、親の取るべき行動は？



[目次に戻る](#)

次へ



① あきらめて料金の支払いをする。

② 未成年の契約なのでクーリングオフ制度を使って手続きする。

③ 消費生活センターに相談し、料金の支払いについて調べ、子どもと話し合う。

[目次に戻る](#)

次へ



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q7 親に内緒で祖父母のスマホを使って課金していたり、ゲームアプリ内のコインが実際の課金とは知らずに購入していたりした。翌月にはゲーム会社から18万円の請求がきました。このとき、親の取るべき行動は？

- ① あきらめて料金の支払いをする。
- ② 未成年の契約なのでクーリングオフ制度を使って手続きする。
- ③ 消費生活センターに相談し、料金の支払いについて調べ、子どもと話し合う。



ベスト
アンサーは③

③ すぐに、消費生活センターに料金支払いの対応方法について相談しましょう。またゲーム会社には「未成年の子どもが勝手に課金した」ことを伝え、支払いの取り消しを求めましょう。支払いの取り消しが認められることもあります。全額、半額、一部返金などの様々なケースがあります。また、解決に3ヶ月以上の時間を要したケースもあります。

① 料金を支払うことは家庭の判断ですが、その後の子どものスマホの使い方について、よく話し合いをすることが大切です。同じ過ちを繰り返さないようにさせましょう。

② ゲームの課金についてはクーリングオフ制度は使用できません。いずれにしても、消費生活センターやゲーム会社、クレジット会社に問い合わせましょう。

※ 親のクレジット情報がスマホ内に残っているときに、課金トラブルの被害が多いようです。初めのうちは100円、200円と少額だったのに、金銭感覚が麻痺し、数日もたたないうちに1000円、2000円単位の購入になり、最終的には、9800円のゲームアイテムを平気で購入していたという事例がありました。パスワードは親に関係しそうな番号を入れたらヒットしたそうです。



[目次に戻る](#)

次へ

ステージ2

Q8 スマホを持たせてから明らかに健康に影響が出はじめました。外遊びがなく肥満傾向、視力低下、偏頭痛等を訴える子どもが増えていきます。健康的な生活を送るためにどうすればよいか、正しいものを選びましょう。



[目次に戻る](#)

次へ



① 親子で一緒に遊ぶなど、体を動かす時間を意識して設け、触れ合う。

② スマホを取り上げて使用を中止し、さらにお小遣いを減らす。

③ 気が済むまで親子一緒にゲームで盛り上がり思う存分やらせ、満足感を与えて気力をアップさせる。



ベストアンサーは

1

次へ

解説

Q8 スマホを持たせてから明らかに健康に影響が出はじめました。外遊びがなく肥満傾向、視力低下、偏頭痛等を訴える子どもが増えています。健康的な生活を送るためにどうすればよいか、正しいものを選びましょう。



ベスト
アンサーは①

① スマホやネット利用により、子どもの成人病が増えていることがベネッセの調査により明らかになっています。ネットやスマホを使用することは視野が広がる等良い面もあります。しかし、小学生の段階では視野を広げるための使い方ではなく、自分の興味・関心やゲーム等だけに使用する傾向にあります。親がスマホの有効活用を教えるだけでなく、子どもと一緒に〇〇する、誘うといった働きかけが大切です。ネット以外に素晴らしい世界があることを体感させましょう。

- ① 親子で一緒に遊ぶなど、体を動かす時間を意識して設け、触れ合う。
- ② スマホを取り上げて使用を中止し、さらにお小遣いを減らす。
- ③ 気が済むまで親子一緒にゲームで盛り上がり思う存分やらせて、満足感を与えて気力をアップさせる。

② 規制することは逆効果の場合もあります。保護者の関わり方が大切です。親もスマホを使わない。一緒にいるときは一緒にできることをするなど、まずは親自身の意識を変えましょう。

③ 気が済むまでゲームをやらせた後は、子どもの行動は二極化します。「もう飽きた」といって遠ざかるか、「もっともっとやりたい」とのめり込むかです。飽きてもまた、時間が経てば元通りになるかもしれません。ベストな解決策とは言えません。



次へ

[目次に戻る](#)

ステージ2



Q9

SNSで知り合った友達と、オンラインゲームをしたり、会話をしたりしていましたが、数日後、親にここそこそそしながら会話やメールをしていますが、「会う」「フリペイカード」などの言葉が聞こえました。子どもにどう対応しまか？



[目次に戻る](#)

次へ



① スマホの使用を禁止する。

② スマホを取り上げ、メール等の内容を確認し、親が返信して対応する。

③ 今の状況を把握し、何が問題になっているのかを親子で話し合う。

[目次に戻る](#)

次へ



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q9 SNSで知り合った友達と、オンラインゲームをしたり、会話をしたりしていました。数日後、親にこそこそしながら会話やメールをしています。「会う」「フリペイドカード」などの言葉が聞こえました。子どもにどう対応しますか？



ベスト
アンサーは③

SNSで多くの人と容易につながることができるようになりました。共通の趣味を持った人や新しい友人を見つけやすい時代になった反面、トラブルが多く起きています。トラブルになる前の対策が一番大事ですが、万が一トラブルになっているようなら、③のように今の状況を確認します。そして、SNSで知り合った人は顔が見えない相手なので、いくらでも嘘の情報が流せる、人をだませることをしっかり理解させることが大切です。また、SNSトラブルの事例（なりすまし詐欺、プライベートカード詐欺、出会い系の詐欺、誘拐、監禁等）も挙げて説明しましょう。

- ① スマホの使用を禁止する。
- ② スマホを取り上げ、メール等の内容を確認し、親が返信して対応する。
- ③ 今の状況を把握し、何が問題になっているのかを親子で話し合う。

① 一時的にトラブルは回避されても、何が悪かったのか、原因は何だったのかをしっかりと子どもに理解させなければまた同じ過ちを繰り返すことになります。

② 子どもが恐喝まがいの被害に遭っている場合は、親が対処するよりも警察に相談した方がよいケースもあります。トラブルが深刻化する前に親が子どもの変化に気づき、初期の段階で対応していくことが大切です。



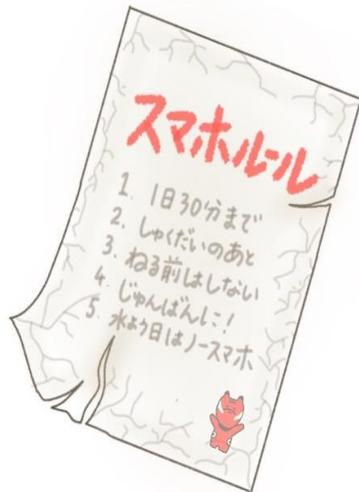
[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ2

Q10

小さい頃に親子で決めたスマホ・SNSのルールを守らなくなってきました。どうすればよいでしょうか。



[目次に戻る](#)

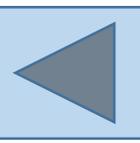
次へ



① ルールを破ったときの厳罰化を付け加えて守らせる。

② ルールを再確認して、目立つところに掲示しておく。

③ 親子で話し合い、年齢に合わせてルールを見直し、修正していく。



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q10 小さい頃に親子で決めたスマホ・SNSのルールを守らなくなってきました。どうすればよいでしょうか。



ベスト
アンサーは③

③ 親子で話し合ったルールも、年齢が上がるにつれて内容を見直していく必要が生じてきます。中学生になると、学校の課題で調べものをする都合上、使用時間が延びることもあります。スマホやPCのオンラインで課題の提出がある場合もあります。それは仕方がないことです。

親子で発達段階に合わせたルールを定期的に見直し、修正していくことがベストです。

- ① ルールを破ったときの厳罰化を付け加えて守らせる。
- ② ルールを再確認して、目立つところに掲示しておく。
- ③ 親子で話し合い、年齢に合わせてルールを見直し、修正していく。

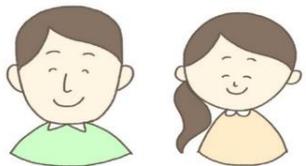
① ルールを破ったときは、罰を与えるのではなく、なぜそうなってしまったのか、そして、それは今後どうしたら改善できるのかを話し合う方がベストです。子どもにとって、よりよい行動をするための具体的なヒントとなります。

② 旧ルールでなく、修正後の新ルールを掲示しましょう。



次へ

[目次に戻る](#)



何問正解できましたか？



今後もスマホ・SNS活用上級者を目指しましょう

今回の検定問題の
解説を見る

検索

トップページに戻る

検索



続けて

ステージ1

(幼・保・こども園、小学校低学年
のお子さんをもつ保護者対象)

ステージ3

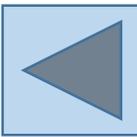
(中学生)

に挑戦する

検索

次へ

ステージ3



Q1 「入学祝にスマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか？



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① 時代と共にスマホは必要になるので購入するが、ルールと罰を決め、例外はないことを話し合う。

② 「なぜ必要なのか、何に使うのか」等、しっかりと話し合う。話し合った結果、目的や理由が明確でない場合は購入しない。購入する場合はルールと一緒に話し合う。

③ テスト、大会等で結果を出したら買うことを約束する。



ベストアンサーは

2

次へ

解説

Q1 「入学祝にスマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか？



ベスト
アンサーは②

② 「なぜ必要で、どんなときに使いたいのか」など、目的や使い方を親子で納得するまで話し合うのがベストです。子どもに親が納得するような理由を明確に説明することを求めても良いでしょう。

① 社会の急速な変化にスマホは必要になってきます。しかし、ネットモラルについてしっかりと理解していない場合は預けるべきではありません。ルールや罰を決めても子どもは簡単にすり抜けます。また、厳罰化も子どもにとっては不満やストレスとなります。しっかり親子で話し合しましょう。

- ① 時代と共にスマホは必要になるので、購入するが、ルールと罰を決め、例外はないことを話し合う。
- ② 「なぜ必要なのか、何に使うのか」等、しっかりと話し合う。話し合った結果、目的や理由が明確でない場合は購入しない。購入する場合はルールと一緒に話し合う。
- ③ テスト、大会等で結果を出したら買うことを約束する。

③ 良い解決策とはいえません。最近では、子どもへの「ご褒美」にスマホを与えたり、スマホの使用時間等を増やすいわゆる「プレゼント保護者」が増加しています。もしかしたら、親自身が子どもにプレゼントをすることで、「良い親」を演じ、自分は良い親だと思い込んでいるのかもしれない。



次へ

[目次に戻る](#)

ステージ3



Q2

子どもが「スマホをなくした」と言ってきた。心当たりはない。場所を探しても見つかりませんでした。どうしたらいいでしょうか？



[目次に戻る](#)

次へ



① とりあえず、携帯音を鳴らして近くにないか探してみる。

② 警察に紛失届を出して、携帯電話会社へ連絡する。

③ GPS機能を使って位置検索する。

[目次に戻る](#)

次へ



ベストアンサーは

2

.

3

次へ

解説

Q2 子どもが「スマホをなくした」と言ってきました。心当たりの場所を探しても見つかりません。どうしたらよいのでしょうか？



ベスト
アンサーは②・③

- ② **速やかに警察に届出**をし、不正利用されないように**携帯電話会社へ連絡**しましょう。すぐにスマホの全機能をストップしてくれます。携帯電話会社は24時間に対応してくれます。
- ③ 子どもも大人も、スマホはGPS機能で検索するサービスに加入しておき、紛失等に備えておくことも一つの良い方法です。

- ① **とりあえず、携帯音を鳴らして近くにないか探してみる。**
- ② **警察に紛失届を出して、携帯電話会社へ連絡する。**
- ③ **GPS機能を使って位置検索する。**

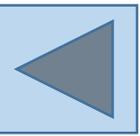
① スマホを鳴らしただけで、画面に電話番号が通知されます。画面の壁紙が友達と撮影した写真だった場合は個人情報等が拡散してしまう恐れがあります。自分のスマホに電話をすることで気づいた人が拾ってくれるかもしれませんが。悪意のある人が拾った場合、個人情報を悪用したり、携帯内に登録してあるカード情報を盗んだりするかもしれません。個人情報の流出につながる安易な行為は絶対にNGです。



[目次に戻る](#)

次へ

ステージ3



**Q3 自転車に乗りながらの
「ながらスマホ」をして
しまい、うっかり人や物
にぶつかってしまいました
た。親はどんな責任を負
うでしょうか？**



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① 自転車で車道を通っていたし、スピードも出していないし、わざとではないので謝れば大丈夫。

② 中学生なので親の責任となる。

③ 本人も親にも責任があり、治療費や損害賠償請求があったり、罪に問われたりする。

[目次に戻る](#)

次へ



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q3 自転車で乗りながら「ながらスマホ」をしてしまい、うっかり人や物にぶつかってしまいました。親はどんな責任を負うのでしょうか？

- ① 自転車で車道を通っていたし、スピードも出してないし、わざとではないので謝れば大丈夫。
- ② 中学生なので親の責任となる。
- ③ 本人も親にも責任があり、治療費や損害賠償請求があったり、罪に問われたりする。



ベスト
アンサーは③

③ 民事事件として治療費や損害賠償を求められ、けがの内容等に応じて数万円～数十万円の請求があるのが通常です。しかし、相手を死亡させた場合については、数千万円から1億円を超える判決例もあります。また、刑事事件として過失致死傷等の責任を負う可能性があります。日頃から公の場でのスマホの使い方について、子どもにも例を挙げながら話し、事故防止に努めましょう。

① 自転車の「ながらスマホ」等が厳罰化されました。また、相手にけがをさせた場合や物損被害を出してしまった場合は、罪に問われたり、損害賠償を求められたりする場合があります。

② 民法の損害賠償では、未成年であれば子どもは責任を取れないため、親の監督責任となります。また、刑法では14歳以上であれば、過失傷害罪等に問われる場合があります。
さらに、道路交通法では、自転車の「ながらスマホ」は5万円以下の罰金が課せられることがあります。



[目次に戻る](#)

次へ

ステージ3

Q4

生活リズムが乱れるほど深夜までの友達へのメール、LINEのやりとりが際限なく続いています。しかも、なかなか抜け出せないらしく、昼夜逆転気味です。子どもの生活を通常に戻すために親としてどうしますか？



[目次に戻る](#)

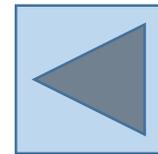
次へ



① まず、スマホのルールを確認する。ルールがなければ話し合ってルール作りをする。

② いつ何時でも相手のことを考えずにメール等をする友達は、お互いに本当の友達として良いのか考えさせる。

③ スマホの長時間使用は明らかに学力低下につながるといった調査結果があるので、その資料を見せながら話し合う。



ベストアンサーは

すべて

次へ

解説

Q4 生活リズムが乱れるほど深夜までの友達へのメール、LINEのやりとりが際限なく続いています。しかも、なかなか抜け出せないらしく、昼夜逆転気味です。子どもの生活を通常に戻すために親としてどうしますか？



ベスト
アンサーはすべて

- ① まずは、スマホのルールを確認する。ルールがなければ話し合っでルール作りをする。
- ② いつ何時でも相手のことを考えずにメール等をする友達は、お互いに本当の友達として良いのか考えさせる。
- ③ スマホの長時間使用は明らかに学力低下につながるといった調査結果があるので、その資料を見せながら話し合う。

そもそもスマホを子どもに与えたのは親です。生活の乱れ、学習をしなくなる恐れ、スマホ依存、健康被害等のリスクを考え、それを回避できると考え、判断した上で与えたと思います。しかし、現実には親がスマホを与えっぱなしで、管理もせずに事が重大になってから慌てるというケースが少なくありません。事が大きくならないように対策をすることが大切です。そのために、子どもと一緒にルールを作り、必要に応じて話し合いや修正を重ね、ルールを見直すことが大切です。また、「その時間を使ったら他にどんなことができるだろう？」と投げかけてみましょう。そして、一緒に考えましょう。例えば、「1日の中でLINEのやりとりを30分止めれば、1ヶ月では15時間にもなります。15時間あったらゲームやスマホ以外で何ができるかな」と具体的な数字を示しながら話し合うことがとても効果的です。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ3



Q5 子どもが実際には会ったことがないSNS上の女の子の友達がいるようです。子どもに伝えることとして当てはまるものを選びましょう。



[目次に戻る](#)

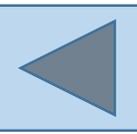
次へ



① 相手は女の子と言うけれど、本当に女の子かどうかは分からない。なりすましている可能性もある。今までのやりとりの中で、暴力的な発言や下品な発言があったのなら、今後の連絡を止め、親に伝えること。

② 親の同意なくSNSで知り合った友達に会いに行ってはいけない。

③ ハンドルネームでやりとりをし、自分の名前はもちろん、住んでいる地域や年齢など、個人情報の特定につながることは教えない。



ベストアンサーは

すべて

次へ

解説

Q5 子どもが実際には会ったことがないSNS上の女の子の友達がいるようです。子どもに伝えることとして当てはまるものを選びましょう。



ベスト
アンサーはすべて

- ① 相手は女の子と言うけれど、本当に女の子かどうかは分からない。なりすましている可能性もある。今までのやりとりの中で、暴力的な発言や下品な発言があったのなら、今後の連絡を止め、親に伝えること。
- ② 親の同意なくSNSで知り合った友達に会いに行ってはいけない。
- ③ ハンドルネームでやりとりをし、自分の名前はもちろん、住んでいる地域や年齢など、個人情報の特定につながることは教えない。

この事例では、親が子どもにスマホを預けたままにし、使用アプリやその内容をチェックしていなかったために、危険な状態になっている事が分かります。被害者とならないために、様々なリスクを想定し、正しい判断ができるように何度も繰り返し事例を挙げながら子どもと話し合ひましょう。

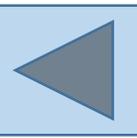
「未成年者の携帯電話・スマートフォン利用実態調査2019年」（情報セキュリティメーカー デジタルアーツ社）の3～18歳未満の子どもを対象にした結果によると、SNSの利用率は全体で89.9%であり、最も高いのは中学女子で97.1%です。ネット上の友達がいるとの回答は40.1%で年々ポイントが上昇しています。その中で、「ネット上で話すうちに信用できると感じた」と答える中学生が最も高く73.0%です。被害者になってしまう中学生のネット上の事件は、「個人情報の漏洩」が43.5%で最も多く、その結果ストーカーされた事例もあります。他にアカウントを乗っ取られる、自分や友達の写真や動画を投稿される、写真を送らせられる、脅迫される、拉致、乱暴等も報告されています。



次へ

[目次に戻る](#)

ステージ3



Q6

子どもがスマホ、ゲームばかりで会話がおろそかになり、対話できません。会話をしてもスマホ画面を見ていて目も合わせず、単語でしか話しません。スマホを手放さず、親との会話は0（ゼロ）に等しいです。どう接すればいいのでしょうか？



[目次に戻る](#)

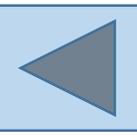
[次へ](#)



① もうこの年代になると手遅れなのであきらめる。きっと思春期が終わったら対話するようになるだろうから今はそっとしておく。

② ルール作りをしたにもかかわらず平気でルールを破っているので、スマホを取り上げる。

③ 「楽しいことをしよう、他のこともたまにはやってみよう」と声をかけて誘ったり、新しい世界に飛び込ませたりと視野を広げさせる。



ベストアンサーは

3

次へ

解説

Q6 子どもがスマホ、ゲームばかりで会話がおろそかになり、対話できません。会話をしていてもスマホ画面を見ていて目も合わせず、単語でしか話しません。スマホを手放さず、親との会話は0（ゼロ）に等しいです。どう接すればいいのでしょうか？

- ① もうこの年代になると手遅れなのであきらめる。きっと思春期が終わったら対話できるようになるだろうから今はそっとしておく。
- ② ルール作りをしたにもかかわらず平気でルールを破っているのだから、スマホを取り上げる。
- ③ 「楽しいことをしよう、他のこともたまにはやってみよう。」と声をかけて誘ったり、新しい世界に飛び込ませたいと視野を広げさせる。



ベスト
アンサーは③

中学生であっても、興味・関心を引くような事象に目を向けられるように背中を押してあげることが必要になります。今のままで十分、スマホがあれば十分といった固まった考え方から視野を広げてあげることが新しい自己開拓につながります。そのきっかけや機会は大人数側で作り、根気強く提案してきましょう。

近い将来、人工知能（AI）によってたくさんの情報が提供されるようになります。様々なことがスマホで1台でできるようになる一方で、そのスマホをなくしたり忘れたりすると、何もできなくなってしまいます。スマホが無ければ何もできない子どもに育ててしまう前に、子どもがたくさんのことに興味・関心を持って視野を広げ、幅広く何事にも対応できるようにしたいものです。そのために、親自身も自分のフィールドを広げましょう。生き生きした親の姿に子どもは敏感に反応します。

中学生という年代になると、スマホを取り上げたり、諭したりしても手遅れになる場合があります。会話をしなかったり、コミュニケーションが取れなかったり、子どもが社会的なつながりを持っていないのは、小さいうちからの生活や行動の仕方が大きく問われています。改善には時間と労力が必要であることを親は認識しましょう。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

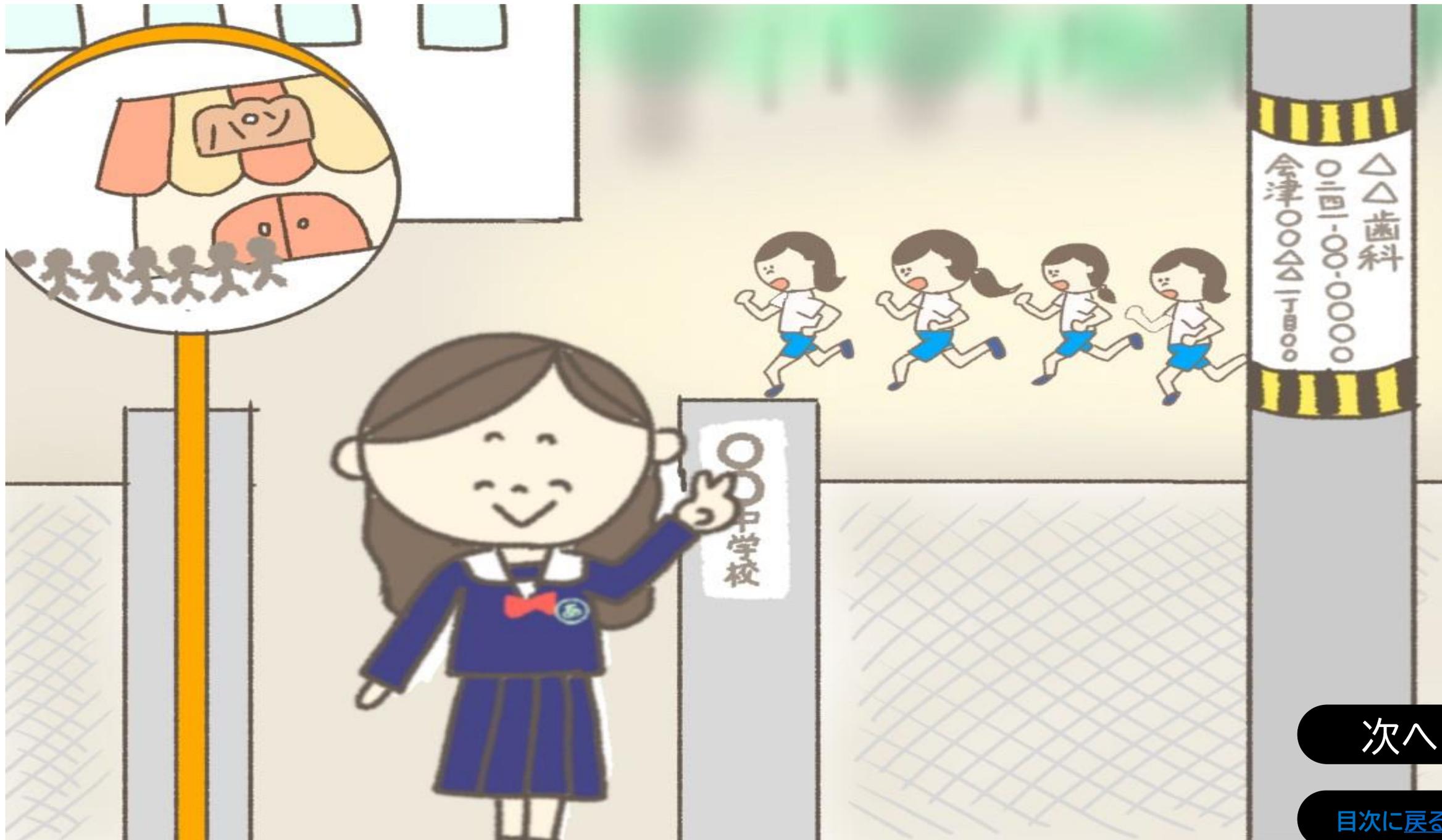
ステージ3



Q7 ある女子中学生が、下校時の様子をSNSに投稿した画像です。この画像から、個人情報特定される恐れがある危険なポイントを全て見つけて、その数を答えましょう。

[目次に戻る](#)

次へ



次へ

[目次に戻る](#)

解説

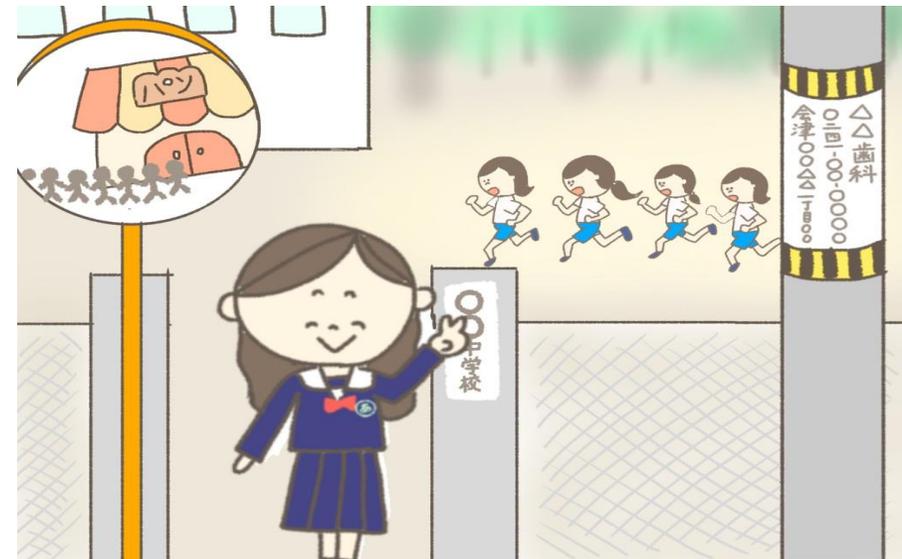
Q7 ある女子中学生が、下校時の様子をSNSに投稿した画像です。この画像から、個人情報特定される恐れがある危険なポイントを全て見つけて、その数を答えましょう。



危険なポイントは
6点です。

一見楽しそうな画像であっても、SNSに投稿してしまうと、画像から個人情報を読み取り、悪用しようとする人が必ずいます。この場合、個人情報特定される恐れのあるポイントは次の6点です。

- ① 学校の制服を着ている
- ② 後ろに学校指定の運動着を着て部活をしている
- ③ 胸に校章が入っていた
- ④ 校門にかすかに学校名が読み取れる
- ⑤ ミラーに有名なパン屋さんが写っていた
- ⑥ 電柱に住所と電話番号入りの△△歯科の案内宣伝がある



個人情報特定されてしまうことにより、自宅の周りをうろつく不審人物が現れたり、ストーカー被害に遭ったり、写真を悪用（合成）されて迷惑な画像をSNSにあげられたりします。最近では人工知能（AI）によって写っている人や場所を解析できる技術開発も進んでいるため、個人の特定までに時間を要さないようです。写真や動画の投稿について子どもと話し合い、危険性を共有することが大切です。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ3



Q8

子どものスマホをたまたま見たら、我が子の普段の書き込みが皆に不快感を与えたらしく、LINEでいじめに遭っているような悪口がたくさん書かれていました。その後は、我が子の書き込みに対しては、既読スルーされ無視されているようです。どう対応すればよいのでしょうか？



[目次に戻る](#)

次へ



① 事実を確認し、LINEの書き込みの消去を管理会社へ依頼する。不快を与えたい書き込みも含め、子どもとスマホの使い方やネットモラルについて話し合う。

② 事実を確認し、明らかないじめなので学校で対応してもらおう。相手の親にも連絡する。

③ 自分がされたらどうするかを考えていない相手なので、その気持ちを知ってもらうためにも同じように書き込みをする。ケースバイケース。



ベストアンサーは

1

次へ

Q8 子どものスマホをたまたま見たら、我が子の普段の書き込みが皆に不快を与えたく、LINEでいじめに遭っているような悪口がたくさん書かれました。その後は、我が子の書き込みに対しては、既読スルーされ無視されているようです。どう対応すればよいのでしょうか？



ベスト
アンサーは①

① まずは、親子でSNS等での書き込みのモラルについて話し合うことが大切です。顔が見えない相手とのやりとりは、普段の会話以上に気を遣わなければならないことを教えましょう。一度書き込んだら、拡散されて消去できないことも教えましょう。また、悪質な書き込みについてはアプリの管理者に削除してもらうことができますが、全てを削除することは難しいのが現状です。

- ① 事実を確認し、LINEの書き込みの消去を管理会社へ依頼する。不快を与えたくらいの書き込みも含め、子どもとスマホの使い方やネットモラルについて話し合う。
- ② 事実を確認し、明らかないじめなので学校で対応してもらおう。相手の親にも連絡する。
- ③ 自分がされたらどうするかを考えていない相手なので、その気持ちを知ってもらうためにも同じように書き込みをする。ケースバイケース。

② いじめかもしれないと思ったときは、その画面をスクリーンショットで撮影し、証拠として保存しておきましょう。ただし、スマホによるトラブルについては、スマホを与え、管理している親の責任です。学校に全ての対応を求めることは間違いです。家庭でしっかり話し合うとともに、関係する子どもの親同士で話し合う場を設け、問題の解決に当たることが大切です。ただし、学校に相談しておくことで、学校での子どもの様子や友達関係等を観察してもらうことはできます。LINEトラブルで不登校気味になる子もいるので注意しましょう。

③ 相手にやられたからやり返すでは、何の解決になりません。堂々巡りで悪化の一途をたどります。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

ステージ3



Q9 親自身がスマホの使い方
や機能を理解しないまま子
どもにスマホを与えている
ケースが多く見られます。
スマホの与え方について正
しいものを選びましょう。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)



① スマホの使い方を教えるより、使っているうちに慣れて色々な使い方を覚えると思われる。とりあえず、使ってみることが大切。

② 親がアプリも含めて、実際に使ってみて知識を身に付けてから子どもに与えるべき。

③ 与えるのは、スマホではなく道徳倫理。

[目次に戻る](#)

次へ



ベストアンサーは

② . ③

次へ

解説

Q9 親自身がスマホの使い方や機能を理解しないまま子どもにスマホを与えているケースが多く見られます。スマホの与え方について正しいものを選びましょう。

- ① スマホの使い方を教えるより、使っているうちに慣れていろいろな使い方を覚えると思われる。とりあえず、使ってみることが大切。
- ② 親がアプリも含め、実際に使ってみて知識を身に付けてから子どもに与えるべき。
- ③ 与えるのは、スマホではなく道徳倫理。



ベスト
アンサーは②・③

- ② 子どもにスマホを与えるのであれば、第一に親が身に付けるべきものとしては、各種の設定方法です。フィルタリング機能、Wi-Fiの自動検知接続OFF機能、スクリーンタイム表示自動電源OFF機能など子どもを守るための設定ができます。設定を知らなければ、安全機能を設定しないまま預けてしまったり、子どもに設定を解除されてしまったりすることもあり、子どものやりたい放題になってしまいます。親が子どもにアプリのダウンロードをしてもらったり、使い方を聞いたりしているということもよく耳にします。
- ③ スマホを与える前に道徳倫理や、ネットモラルなどを身に付けさせるべきです。SNSなどの不特定多数の人が利用するために情報漏洩等の怖さも教えなければなりません。親自身がしっかりと子どもにスマホ用語や使い方を説明できるかが鍵です。

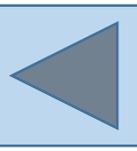
- ① 使っているうちに覚えるだろうという考えは安易で危険です。いろいろ試しているうちに、個人情報が出ていたり、悪質なサイトに引っかかったりと、常に危険な状態でスマホを使用していることになります。



[目次に戻る](#)

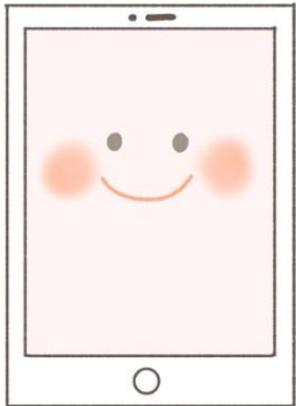
[次へ](#)

ステージ3



Q10

スマホのメリットと
デメリットを3つずつ
挙げましょう。

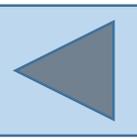
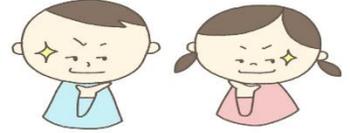
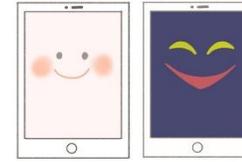


[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q10 スマホのメリットとデメリットを3つずつ挙げましょう。



【メリット？ デメリット？】

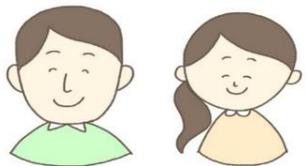
- ・ 知りたい情報を即座に得ることができる⇔情報過多で、どの情報を信用すべきか分からない。
- ・ 連絡ツールとして便利⇔連絡以外の掲示板になっている。
- ・ 音楽を聴いたり、読書が手近にできる⇔著作権や違法ダウンロードが多い。
- ・ 自宅や出先で仕事ができる⇔家にこもる、仕事上の情報が持ち出されて危険。
 - ・ ・ ・ 挙げれば切りがありません。

上記のように、スマホ一つでできることは無数にあります。しかし裏を返せばその分危険なリスクがあることも知っておかなければなりません。利便性の背後にある問題を常に意識し、子どもも親も「スマホ廃人」とならないようにしていかなければなりません。これからの予測不能な社会を生き抜くためには子どもたちに真の「生きる力」を養う必要があります。

どれほど時代が変わろうと、根底で変わらないもの・普遍的なものが必ずあります。優しさや思いやり、健やかな体、挑戦や努力を続けるたくましさ等、普遍的な子どもの育ちをしっかりと支える基盤は家庭です。親自身が「スマホ・SNS活用の上級者」となり、スマホやSNSを上手に活用できる子どもを育てていきましょう。

[目次に戻る](#)

次へ



何問正解できましたか？



今後もスマホ・SNS活用上級者を目指しましょう

今回の検定問題の
解説を見る

検索

トップページに戻る

検索



続けて

ステージ1

(幼・保・こども園、小学校低学年
のお子さんをもつ保護者対象)

ステージ2

(小学校中・高学年のお子さんをもつ
保護者対象)

に挑戦する

検索

次へ

会津版 スマホ・SNS検定

Q&A 解説集

ステージ1



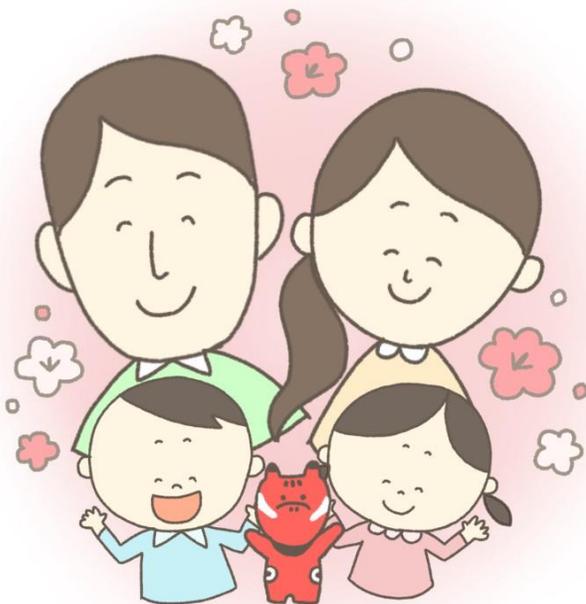
目次にもどる

次へ

会津版 スマホ・SNS検定

Q&A 解説集

ステージ2



目次にもどる

次へ

会津版 スマホ・SNS検定

Q&A 解説集

ステージ3



目次にもどる

次へ

解説

Q1 「スマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか？

- ① テスト等の結果次第のご褒美で買ってあげる。
- ② なぜ必要なかを話し合っ
て決める。
- ③ お金がないなどの理由を伝え、
買わない。

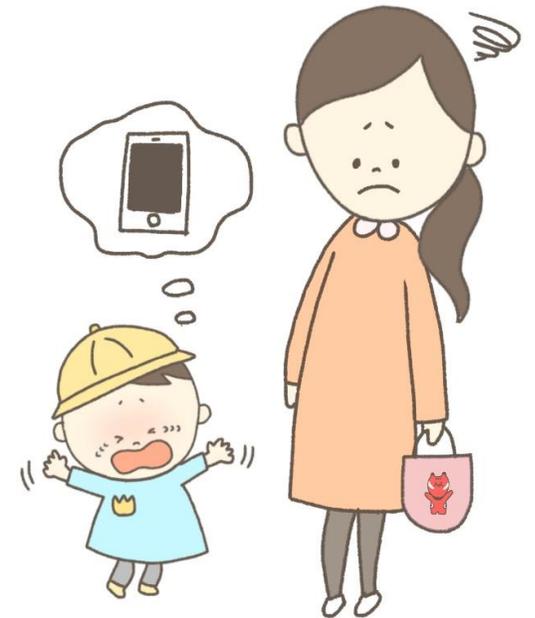


ベスト
アンサーは②

② 「なぜ必要で、どんなときに使いたいのか」など、目的や使い方を親子で納得するまで話し合うのがベストです。子どもに親が納得するような理由を述べさせてみてから決めるのも良いと思います。ただ単に「ゲームをしたいから」などという理由に対し、「ゲームだけなら大丈夫かな」と安易に与えてしまうのは避けましょう。通信ゲームによる長時間使用など、後々の生活習慣が乱れていくことも考えられます。

① モノやご褒美でつるのは、今後も「モノやご褒美を手に入れるために頑張る」と思うようになってしまいます。

③ 親がお金がないと言うのなら、祖父母に購入をせがんだり、自分でお小遣いを貯めれば購入しても良いという思考回路となったり、「自分のお金で購入したんだから、口出ししないで！」等、親が管理できなくなってしまうこともあります。



次へ

[目次に戻る](#)

解説

Q2 スマホのアプリをダウンロードして子どもに与えます。どんなアプリをダウンロードすれば良いでしょうか。

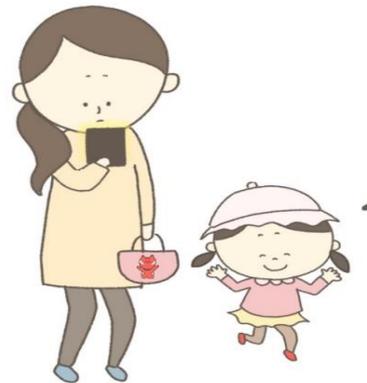


ベスト
アンサーは③

③ 親子で共用できるアプリは、親自身も使い方や内容が分かり、安心できます。音楽や、知能ゲーム、地図アプリなどは脳や五感を使ったり、方向感覚や地図記号、地図の見方が分かったりなど、実際の社会で使えるのがおすすめです。散歩途中での不思議や感動シーンを撮影し、帰宅して子どもと調べたり、ファイリングしたりする撮影アプリもおすすめです。子どもと共に使い、視野を広げましょう。さらに、ゲームやアプリには「〇歳以上」という年齢区分マーク（レーティング）が表示されますので、「年齢に見合っているかどうか」を親が判断してあげましょう。

- ① 子どもの使いたいアプリを試してから、ダウンロードしてあげる。
- ② 親がアプリを選択してダウンロードする。
- ③ 親も子も共有できるアプリをダウンロードする。

② 親が選んで与えたアプリは、子どもにとっては興味のないものになる場合があります。子どもと話し合い有益なものを上手に活用しましょう。



① 子どもにせがまれたアプリを、無料お試しで内容を確認するのは良いことです。しかし、無料お試しではアプリの全貌を見ることはできません。進めていくうちに課金されることや、他のサイトのものも併用することが条件になるアプリもあります。事前に親がしっかりと情報を集め、判断することが大切です。子どもがどんなアプリを使い、何をしているか親がしっかりと把握しなければなりません。子ども任せはNGです。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q3 病院で、図書館で・・・公共の場で子どもがぐずって泣いて大変です。家事中に子どもが泣いて大変です。こんなときどうしますか？



ベスト
アンサーは①

① メディアよりも何よりもおうちの人の温かい感触、言葉が子どもの安心感と満足感につながります。また、十分な時間を取って話したり聞いたりするも効果的です。一緒に散歩する、遊ぶなど外に連れ出して思いっきり体を動かしてみるのもよいでしょう。

② 一見有効そうに見えますが、お菓子を食べ終わったり、本を読み終わったりすると再度ぐずったり泣き出したりするなど、一時的な手段に過ぎません。

③ 幼児期からスマホ等の画面を長時間注視すると、ブルーライトや電磁波により目や脳に悪影響があると医学的に報告されています。子どもは静かになりますが、ぐずったり泣いたりすれば「YouTube」やテレビが見られることを学習してしまい、繰り返すようになります。

なぜ今泣くの？ 時間がないのに……。そう思っている親の気持ちが子どもに伝わり、子どもは逆に不安になることがあります。思い切って子どものために時間を取って対応することが、子どもの満足につながり、心の底から子どもを落ち着かせることになります。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)



解説

Q4 子どもが勝手に親のスマホをいじり、不適切動画を見ていました。どう対処すれば良いでしょうか。



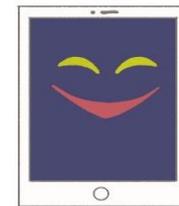
ベスト
アンサーは②

② フィルタリングは、有害な情報や間違いアクセスによるトラブルから、子どもを守る機能です。販売店で「子どもも使用する」ことを伝え、フィルタリングの設定をしてもらいましょう。大人が使用する際は、フィルタリングの設定は、簡単にON, OFFすることができます。契約の切れた端末にもフィルタリングをしてから子どもに与えましょう。通話機能はありませんが、Wi-Fi環境のあるところではネット利用ができます。

- ① スマホのパスワード認証、指紋認証、顔認証などで管理をする。
- ② 親のスマホにもフィルタリングを設定しておく。
- ③ 取り上げる。使わせない。

① 子どもが親のスマホを借りて使っているときに、親のパスワードを変更設定してしまうことがあります。親は普段、指紋や顔で認証する方が速くて便利なので、パスワード認証することが少なくなってきました。パスワードを変更されたことに気づかないこともあります。親は子どもが使用する場合も想定してスマホの管理の仕方を見直しましょう。

③ 取り上げたり、使わせなかったりするのとは子どもにとっては逆効果です。家で使えないなら、友達の家で使わせてもらう等の行動に出ます。さらには友達のスマホを貸してもらうことによりトラブルになることもあります。規制することより使い方について話し合しましょう。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q5 寝る前にスマホをリビングに置いておいたのに、子どもが夜中に布団の中でスマホでゲームをしていました。親はどうすればよいでしょうか。

- ① スマホを取り上げて叱る。
- ② 毎日親子で一緒に寝るようにする。
- ③ とりあえず就寝させ、翌日にスマホ利用等についてのルールを再確認し合う。



ベスト
アンサーは③

③ 家庭で決めたルールを何度も繰り返し再確認することが大切です。子どもは忘れやすいので、ルールをリビングや子ども部屋など、目に付くところに張り出しておきましょう。また、睡眠の重要性について話をしても効果的です。

② 小さいうちには本の読み聞かせなどをしながら眠りにつくなどは、親の温もりが感じられ心が安定します。しかし、年齢が上がるにつれて一緒に寝る機会も減ってきます。親が隣にいても、自己管理ができるように生活習慣を整えていくことも必要になってきます。

① スマホを取り上げて就寝させれば、いったん事態は収まりますが、その日限りの対応で長続きしません。また、親がゲーム機をしっかりと管理することも重要です。子ども任せにしたり、管理が甘くなったりしていないか確認すると共に、親子でルール作りをしましょう。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q6 「無料」とうたっているオンラインゲームで子どもが遊んでいる間に、アイテムが有料であることに気付かず購入してしまったため、高額の料金を請求されてしまいました。こんな時どうしますか？



ベスト
アンサーは①

① 高額請求があった場合は、すぐに消費生活センターやクレジット会社、アプリ運営会社に連絡し、「未成年の子どもが勝手に課金した」ことを伝え、支払いの取り消しを申し出ましょう。全額返金、一部返金、返金されないなど様々なケースがあります。いずれにしても課金トラブルにならないための予防策が大切です。子どものスマホの利用状況を把握するために、ペアレンタルコントロールを活用しましょう。例えば、子どもがスマホでゲームをする場合、保護者のスマホで、子どもの日々のプレイ状況を確認したり、プレイする時間の長さや時間帯の調整、課金の制限等を行ったりすることができます。子どもの使用状況に応じて上手に活用しましょう。

- ① 料金の支払いについて、消費生活センターやアプリ運営会社に相談する。
- ② あきらめて、料金の支払いをする。
- ③ 未成年の契約なので、料金は支払わなくてもよい。

② 子どもにはまず、「課金とは何か」というところから話してみてもいいでしょうか。ゲーム課金すべてが悪いのではなく、課金したお金の出所が、親が働いて得たお金の場合は、「それっていいのかな？」と子どもに質問してみてください。子どもが親の承諾を得ず課金することは、親のお金を勝手に使うことと一緒であることを子どもに伝えて、今後の課金のルールについて親子で互いに意見を出し合い、子どもも納得できるように決めていきましょう。その使い方がふさわしいか、話し合ってみましょう。

③ 請求をそのままにしておくと利息が付きどんどん料金が膨らんでしまいます。まずは①のように連絡・相談をしましょう。



[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q7 ある日、先生から、「最近眠そうにしている。外でもあまり遊ばなくなり、給食や弁当もあまり食べなくなった。」と電話が来ました。こんなときどうしますか？



ベスト
アンサーは②

風邪等の症状もない場合には②のように何が原因であるのか観察する必要があります。1日の行動観察の中でスマホやネット利用の時には元気であれば、スマホやネット依存による影響が疑われます。ゲームを終わらせるタイミングが分からず長時間利用している場合は要注意です。生活習慣の乱れや睡眠不足は、健康や学習に様々な影響が出てきます。少しずつでいいので、週に1回、2回、1日置きと、早く寝て、翌朝“早起きトーク・運動”をするという生活習慣の改善を試みましょう。もちろん、子どもだけではできないので、親も一緒に行いましょう。いざというときに実力を発揮できなかったり体調を崩したりして後悔しないよう、自制する力を小さいうちから育てましょう。

- ① 具合が悪いかもしれないので症状を確認して病院に連れて行く。
- ② 1日の行動を観察し、その原因を取り除くように親子で話し合ってみる。
- ③ 2、3日休ませて、体調を回復させる。

①や③のように、念のため病気を疑い、病院で診察してもらうことも必要かもしれません。



[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q8 国立成育医療研究センターで行った親子関係のアンケートでは「家族といるのがあまり楽しくない」「楽しくない」と答えた子どもが70%でした。その理由は？



ベストアンサーは
すべてです

- ① 休日にインターネットを長時間使う親の割合が大きく、子どもと遊ばずに部屋に引きこもっているから。
- ② 親は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す。目を合わせて会話しないから。
- ③ 一緒に遊んでくれないし、怒ってばかりいるから。

スマートフォン、タブレットはとても便利で画期的なツールです。アプリを通じてたくさんのコンテンツにアクセスできるので、新しいことを学ぶ機会を与えてくれます。しかし、一方では電車内や病院の待合室等でのスマホ使用率は90%以上という調査結果もあり、依存症になる大人も多いと言われています。幼い子どもを持つ親なら、子どもにスマートフォンなどの依存症になってほしくないと思っていることでしょう。スマートフォンを長時間使用しすぎると身体的影響だけでなく、学力が低下するという調査結果も出ています。

子どもに「スマホやゲームはダメ」と言う前に、親が自分自身を変えるよう努力し、親として子どもの模範となる姿を子どもに見せ、改善していくことの方が大切ではないでしょうか。子どもは親をよく見えています。親として成長するチャンスだと思い、「共育」を実践してみましょう。



[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q1 「みんな持っているからスマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか。

- ① 自分でお金を貯めて買いなさいと言う。
- ② あと2、3年したら与えるなど、時期を明示して納得させる。
- ③ なぜ必要なのか、何がしたいのか話し合う。

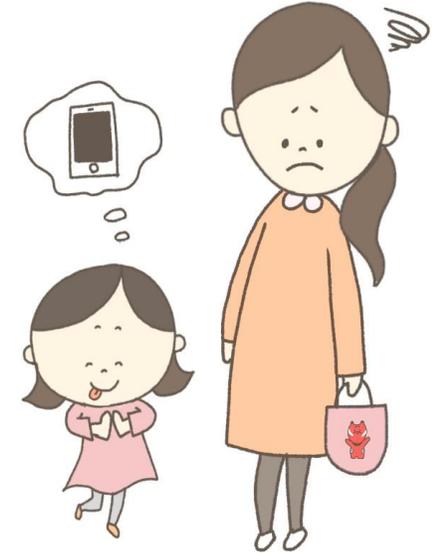


ベスト
アンサーは③

③ 「なぜ必要で、どんなときに使い、何がしたいのか」など、目的や使い方を親子で納得するまで話し合うのがベストです。子どもに親が納得するような理由をプレゼン（発表）させてから決めるのも良いと思います。ただ単に「LINEを使いたいから」などという理由に対し、「LINEは無料だし大丈夫だろう」と安易に与えてしまうのは避けましょう。LINEアプリの正しい使い方を知らなければ、後々トラブルになることは目に見えています。

① 親に負担をかけずに自分でお小遣いを貯めれば本体を購入しても良いと思ってしまう。契約や月々の使用料を払うのは親であることも教えるべきでしょう。「自分のお金で購入したんだから、口出ししないで！」と管理が難しくなるケースもあります。

② 「与える時期が早いだけ」と子どもが認識してしまいがちですが、与える時期が来るまでの間、スマホの使い方や危険性、ルール作りを行い、親子で十分に学習しておきましょう。



スマホ等は子どもだけでは契約できません。与えるのは親です！与えた責任が親にものしかかってきます。

[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q2 親の知らないところでオンラインゲームをしているようです。部屋に引きこもってばかりいて心配です。親としてどう対応しますか。

- ① 親子で決めたルールについて再確認する。
- ② 取り上げてゲームやスマホをやめさせる。
- ③ 一定の使用時間で電源OFFとなる設定をする。



ベスト
アンサーは①

① スマホを与えると決めたのなら、親子できっちりとルール作りをしましょう。うやむやにしたり、ちょっとだけならなどと甘い管理するのはやめましょう。子どもは「この前は良かったのに」などと、親の対応の曖昧さを指摘しようとしません。親も毅然とした態度が必要です。

② 取り上げたり、使わせなかったりするのとは子どもにとっては逆効果です。スマホを探し回ったり、親のスマホをバレないように使ったりと、悪知恵を働かせるようになります。また、友達に借りることによってトラブルも生じます。規制することにより子どもの不満やイライラは強くなります。きちんと納得するまで、何が悪いのか、どうすれば良かったのか等、具体的に話し合しましょう。

③ 一見有効に見えますが、子どもは大人が思っている以上に、スマホを使いこなします。簡単に電源OFF機能を解除してしまいます。通信機器を使いこなす方法について子どもが情報交換し合い、その技術を身に付けています。そのスピードと技術は親がびっくりするくらいです。一時的な解決策であることを理解しておきましょう。※ペアレンタルコントロールするのも一つの良い方法です。

※ ペアレンタルコントロールは、子どものスマホやタブレット、ゲーム機の利用状況を保護者が把握したり、安全管理を行ったりする仕組みです。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q3 子どもがスマホを使用する際に、有害なサイトへのアクセスをブロックしてくれる「フィルタリング」について、正しく説明しているものを選びましょう。



ベスト
アンサーは③

③ フリーのWi-Fiは、せっきくのフィルタリングの機能が使えなくなってしまう。子どもたちはその情報を知っています。ファーストフード店やコンビニに群がっているのはフィルタリング機能を外すためです。フリーWi-Fiは、たくさんの人が利用しているため、自分の情報が盗まれることがあることを子どもに教えましょう。



- ① フィルタリングをかけると全てのサイトが見られなくなる。
- ② フィルタリングの設定や解除は購入店でも親でもできるが、購入時限りである。
- ③ フリーのWi-Fiを使うとフィルタリングが機能しない。

① フィルタリングには年齢段階などに合わせたいくつかの種類があり、一部のサイトだけを使えるようにする「カスタマイズ」ができる機能もあります。上手にフィルタリングをかけることで、子どもに安心な情報を提供できます。また、フィルタリングをしたスマホは保護者が簡単にON・OFFできるので、保護者のスマホにも設定しておいた方がよいでしょう。フィルタリングの解約は保護者の同意が必要です。

② 保護者が不要と申し出た場合を除き、「青少年インターネット環境整備法」という法律で、18歳未満の青少年が使う携帯電話サービスには原則として購入店でフィルタリングを付けなければならないことになっています。なお、フィルタリングは何度でも設定・解除できます。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q4 自分の子どもが「ネットいじめ」の被害に遭っていることを知りました。ネット上の悪口の書き込みや、仲間はずれなどがあるようです。親としてどう対応しますか？



ベスト
アンサーは③

③ 2013年に制定された「いじめ防止対策推進法」では、学校等でいじめ対策を行うことを義務づけています。いじめにはネットいじめも含まれています。ネットいじめに遭った場合は、証拠を残すためにスクリーンショットを撮っておくことが大切です。量が多い場合は、その画面をスクロールしているところの動画を撮っておきましょう。

また、管理元に書き込みの削除を求めた場合はその日付けで削除されますが、以前に拡散されてしまっている場合の削除は難しいです。

- ① 悪口がかかれた掲示板やアプリを削除する。
- ② 学校に相談し、相手の家庭に連絡して指導・謝罪してもらう。ネット利用について学校で指導してもらう。
- ③ 書き込まれた証拠をスクリーンショットで撮影して残し、掲示板やアプリの管理者に連絡して削除してもらう。

① 子どものスマホの掲示板やアプリを削除しただけでは問題の解決になりません。一度アップされた言葉や画像は世界中に拡散されると言っても過言ではありません。最小限の拡散で食い止めるには管理元に連絡し、書き込みを削除してもらうことが必要です。

② 明らかないじめであることとして対応してもらうことは大切です。しかし、学校任せにするのではなく家庭でスマホの使い方やモラルについてしっかり話し合ひましょう。また、いじめに遭ったお子さんに寄り添いながら心のケアに努めることも大切です。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q5 スポ少や習い事、PTAの委員等で親同士のトラブルが多発（SNSに勝手に写真をアップした、LINE外しがある等）しています。どう対処しますか？



ベスト
アンサーは①

① 子どものスマホ問題の前に、親自身がスマホやSNSのモラルについて学びましょう。便利なアプリ等に目が行きがちですが、一つの行動が法に触れることもあります。また、スポ少やグループ等で、スマホやSNSを利用する際に、やってはいけないこと等についてしっかりと話し合い、ルール化しておくことも大切です。

② 退出することによってその状況からは逃れることができます。しかし、人と人とのつながりまで断つことのないように、顔を合わせて話す、伝える等のコミュニケーションをとることが大切です。

- ① ネットモラルについて学習する。やってはいけないルール等を親同士でしっかり話し合う。
- ② グループから退出する。関わらないようにして静観する。
- ③ アップされた写真は削除する。

③ 子どもの写真は悪用されやすいことをしっかりと親同士で共通理解を図りましょう。画像を合成されて、フェイク画像を作り上げられることもあります。アップしたサイトの管理元に削除を依頼しましょう。親の「楽しかった。かわいい。」などという理由で安易に子どもたちの画像をアップすることは犯罪につながるリスクがあることを理解しておきましょう。勝手に他人の顔写真等をネットに公開することは肖像権の侵害となります。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q6 子どもが、ネットで検索した嘘（フェイクニュース）情報をそのまま信じてしまいます。そのために親の言うこともなかなか聞かなくなってきました。ネット情報にだまされそうで心配です。子どもにどんな対応をすればよいか正しいものを選びましょう。



ベスト
アンサーは③・②

③ 虚偽のニュースがSNSで流され「大変だ！ みんなに教えなくちゃ！」と思ったときほど落ち着いて周りの大人に確認や相談するようにアドバイスをしましょう。また、その情報が正しいのかどうか新聞やTVで照らし合わせてみるように助言することも大切です。落ち着いて情報の真偽を確かめる態度を育てることが情報も信頼性も見極める力を育てることにつながります。

② フェイクニュースには、誹謗・中傷、相手をおとしめることを目的とした投稿を含むことがあります。子どもはすぐにフェイクニュースを信じてしまう傾向にあります。最初の発信元以外の人は、その情報に感情等の尾ひれを付けて発信することが多いので信頼性があまりないことを教えましょう。

- ① 情報を提供してくれた人が正直な人かどうかを調べることを教える。
- ② 一番はじめに発信した発信元を見極めるようにすることを教える。
- ③ ネット情報だけでなく、新聞やニュース等のSNS以外の情報と照らし合わせることを教える。



- ① 正直かどうかを調べる術がありません。外見で判断することや思い込みだけの判断はやめさせましょう。

※ 災害時にはフェイクニュースが流れることによって人々はパニック状態に陥り、救助活動に支障をきたします。このように、フェイクニュースの拡散は多くの人に思わぬ悪影響を与えることにつながる恐れがあることを確認しましょう。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q7 親に内緒で祖父母のスマホを使って課金していたり、ゲームアプリ内のコインが実際の課金とは知らずに購入していたりした。翌月にはゲーム会社から18万円の請求がきました。このとき、親の取るべき行動は？

- ① あきらめて料金の支払いをする。
- ② 未成年の契約なのでクーリングオフ制度を使って手続きする。
- ③ 消費生活センターに相談し、料金の支払いについて調べ、子どもと話し合う。



ベスト
アンサーは③

③ すぐに、消費生活センターに料金支払いの対応方法について相談しましょう。またゲーム会社には「未成年の子どもが勝手に課金した」ことを伝え、支払いの取り消しを求めましょう。支払いの取り消しが認められることもあります。全額、半額、一部返金などの様々なケースがあります。また、解決に3ヶ月以上の時間を要したケースもあります。

① 料金を支払うことは家庭の判断ですが、その後の子どものスマホの使い方について、よく話し合いをすることが大切です。同じ過ちを繰り返さないようにさせましょう。

② ゲームの課金についてはクーリングオフ制度は使用できません。いずれにしても、消費生活センターやゲーム会社、クレジット会社に問い合わせましょう。

※ 親のクレジット情報がスマホ内に残っているときに、課金トラブルの被害が多いようです。初めのうちは100円、200円と少額だったのに、金銭感覚が麻痺し、数日もたたないうちに1000円、2000円単位の購入になり、最終的には、9800円のゲームアイテムを平気で購入していたという事例がありました。パスワードは親に関係しそうな番号を入れたらヒットしたそうです。



[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q8 スマホを持たせてから明らかに健康に影響が出はじめました。外遊びがなく肥満傾向、視力低下、偏頭痛等を訴える子どもが増えています。健康的な生活を送るためにどうすればよいか、正しいものを選びましょう。



ベスト
アンサーは①

① スマホやネット利用により、子どもの成人病が増えていることがベネッセの調査により明らかになっています。ネットやスマホを使用することは視野が広がる等良い面もあります。しかし、小学生の段階では視野を広げるための使い方ではなく、自分の興味・関心やゲーム等だけに使用する傾向にあります。親がスマホの有効活用を教えるだけでなく、子どもと一緒に〇〇する、誘うといった働きかけが大切です。ネット以外に素晴らしい世界があることを体感させましょう。

- ① 親子で一緒に遊ぶなど、体を動かす時間を意識して設け、触れ合う。
- ② スマホを取り上げて使用を中止し、さらにお小遣いを減らす。
- ③ 気が済むまで親子一緒にゲームで盛り上がり思う存分やらせて、満足感を与えて気力をアップさせる。

② 規制することは逆効果の場合もあります。保護者の関わり方が大切です。親もスマホを使わない。一緒にいるときは一緒にできることをするなど、まずは親自身の意識を変えましょう。

③ 気が済むまでゲームをやらせた後は、子どもの行動は二極化します。「もう飽きた」といって遠ざかるか、「もっともっとやりたい」とのめり込むかです。飽きてもまた、時間が経てば元通りになるかもしれません。ベストな解決策とは言えません。



次へ

[目次に戻る](#)

解説

Q9 SNSで知り合った友達と、オンラインゲームをしたり、会話をしたりしていました。数日後、親にこそこそしながら会話やメールをしています。「会う」、「フリペイドカード」などの言葉が聞こえました。子どもにどう対応しますか？



ベスト
アンサーは③

SNSで多くの人と容易につながることができるようになりました。共通の趣味を持った人や新しい友人を見つけやすい時代になった反面、トラブルが多く起きています。トラブルになる前の対策が一番大事ですが、万が一トラブルになっているようなら、③のように今の状況を確認します。そして、SNSで知り合った人は顔が見えない相手なので、いくらでも嘘の情報が流せる、人をだませることをしっかり理解させることが大切です。また、SNSトラブルの事例（なりすまし詐欺、プライベートカード詐欺、出会い系の詐欺、誘拐、監禁等）も挙げて説明しましょう。

- ① スマホの使用を禁止する。
- ② スマホを取り上げ、メール等の内容を確認し、親が返信して対応する。
- ③ 今の状況を把握し、何が問題になっているのかを親子で話し合う。

① 一時的にトラブルは回避されても、何が悪かったのか、原因は何だったのかをしっかりと子どもに理解させなければまた同じ過ちを繰り返すことになります。

② 子どもが恐喝まがいの被害に遭っている場合は、親が対処するよりも警察に相談した方がよいケースもあります。トラブルが深刻化する前に親が子どもの変化に気づき、初期の段階で対応していくことが大切です。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q10 小さい頃に親子で決めたスマホ・SNSのルールを守らなくなってきました。どうすればよいでしょうか。



ベスト
アンサーは③

③ 親子で話し合ったルールも、年齢が上がるにつれて内容を見直していく必要が生じてきます。中学生になると、学校の課題で調べものをする都合上、使用時間が延びることもあります。スマホやPCのオンラインで課題の提出がある場合もあります。それは仕方がないことです。

親子で発達段階に合わせたルールを定期的に見直し、修正していくことがベストです。

- ① ルールを破ったときの厳罰化を付け加えて守らせる。
- ② ルールを再確認して、目立つところに掲示しておく。
- ③ 親子で話し合い、年齢に合わせてルールを見直し、修正していく。

① ルールを破ったときは、罰を与えるのではなく、なぜそうなってしまったのか、そして、それは今後どうしたら改善できるのかを話し合う方がベストです。子どもにとって、よりよい行動をするための具体的なヒントとなります。

② 旧ルールでなく、修正後の新ルールを掲示しましょう。



次へ

目次に戻る

解説

Q1 「入学祝にスマホを買って」と子どもにせがまれました。親としてどう対応しますか？



ベスト
アンサーは②

② 「なぜ必要で、どんなときに使いたいのか」など、目的や使い方を親子で納得するまで話し合うのがベストです。子どもに親が納得するような理由を明確に説明することを求めても良いでしょう。

① 社会の急速な変化にスマホは必要になってきます。しかし、ネットモラルについてしっかりと理解していない場合は預けるべきではありません。ルールや罰を決めても子どもは簡単にすり抜けます。また、厳罰化も子どもにとっては不満やストレスとなります。しっかり親子で話し合しましょう。

- ① 時代と共にスマホは必要になるので、購入するが、ルールと罰を決め、例外はないことを話し合う。
- ② 「なぜ必要なのか、何に使うのか」等、しっかりと話し合う。話し合った結果、目的や理由が明確でない場合は購入しない。購入する場合はルールと一緒に話し合う。
- ③ テスト、大会等で結果を出したら買うことを約束する。

③ 良い解決策とはいえません。最近では、子どもへの「ご褒美」にスマホを与えたり、スマホの使用時間等を増やすいわゆる「プレゼント保護者」が増加しています。もしかしたら、親自身が子どもにプレゼントをすることで、「良い親」を演じ、自分は良い親だと思い込んでいるのかもしれない。



次へ

[目次に戻る](#)

解説

Q3 自転車で乗りながら「ながらスマホ」をしてしまい、うっかり人や物にぶつかってしまいました。親はどんな責任を負うのでしょうか？

- ① 自転車で車道を通っていたし、スピードも出してないし、わざとではないので謝れば大丈夫。
- ② 中学生なので親の責任となる。
- ③ 本人も親にも責任があり、治療費や損害賠償請求があったり、罪に問われたりする。



ベスト
アンサーは③

③ 民事事件として治療費や損害賠償を求められ、けがの内容等に応じて数万円～数十万円の請求があるのが通常です。しかし、相手を死亡させた場合については、数千万円から1億円を超える判決例もあります。また、刑事事件として過失致死傷等の責任を負う可能性があります。日頃から公の場でのスマホの使い方について、子どもにも例を挙げながら話し、事故防止に努めましょう。

① 自転車の「ながらスマホ」等が厳罰化されました。また、相手にけがをさせた場合や物損被害を出してしまった場合は、罪に問われたり、損害賠償を求められたりする場合があります。

② 民法の、損害賠償では、未成年であれば子どもは責任を取れないため、親の監督責任となります。また、刑法では14歳以上であれば、過失傷害罪等に問われる場合があります。
さらに、道路交通法では、自転車の「ながらスマホ」は5万円以下の罰金が課せられることがあります。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q3 自転車で乗りながら「ながらスマホ」をしてしまい、うっかり人や物にぶつかってしまいました。親はどんな責任を負うのでしょうか？

- ① 自転車で車道を通っていたし、スピードも出してないし、わざとではないので謝れば大丈夫。
- ② 中学生なので親の責任となる。
- ③ 本人も親にも責任があり、治療費や損害賠償請求があったり、罪に問われたりする。



ベスト
アンサーは③

③ 民事事件として治療費や損害賠償を求められ、けがの内容等に応じて数万円～数十万円の請求があるのが通常です。しかし、相手を死亡させた場合については、数千万円から1億円を超える判決例もあります。また、刑事事件として過失致死傷等の責任を負う可能性があります。日頃から公の場でのスマホの使い方について、子どもにも例を挙げながら話し、事故防止に努めましょう。

① 自転車の「ながらスマホ」等が厳罰化されました。また、相手にけがをさせた場合や物損被害を出してしまった場合は、罪に問われたり、損害賠償を求められたりする場合があります。

② 民法の損害賠償では、未成年であれば子どもは責任を取れないため、親の監督責任となります。また、刑法では14歳以上であれば、過失傷害罪等に問われる場合があります。
さらに、道路交通法では、自転車の「ながらスマホ」は5万円以下の罰金が課せられることがあります。



[目次に戻る](#)

次へ

解説

Q4 生活リズムが乱れるほど深夜までの友達へのメール、LINEのやりとりが際限なく続いています。しかも、なかなか抜け出せないらしく、昼夜逆転気味です。子どもの生活を通常に戻すために親としてどうしますか？



ベスト
アンサーはすべて

- ① まずは、スマホのルールを確認する。ルールがなければ話し合ってルール作りをする。
- ② いつ何時でも相手のことを考えずにメール等をする友達は、お互いに本当の友達として良いのか考えさせる。
- ③ スマホの長時間使用は明らかに学力低下につながるといった調査結果があるので、その資料を見せながら話し合う。

そもそもスマホを子どもに与えたのは親です。生活の乱れ、学習をしなくなる恐れ、スマホ依存、健康被害等のリスクを考え、それを回避できると考え、判断した上で与えたと思います。しかし、現実には親がスマホを与えっぱなしで、管理もせずに事が重大になってから慌てるというケースが少なくありません。事が大きくならないように対策をすることが大切です。そのために、子どもと一緒にルールを作り、必要に応じて話し合いや修正を重ね、ルールを見直すことが大切です。また、「その時間を使ったら他にどんなことができるだろう？」と投げかけてみましょう。そして、一緒に考えましょう。例えば、「1日の中でLINEのやりとりを30分止めれば、1ヶ月では15時間にもなります。15時間あったらゲームやスマホ以外で何ができるかな」と具体的な数字を示しながら話し合うことがとても効果的です。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q5 子どもが実際には会ったことがないSNS上の女の子の友達がいるようです。子どもに伝えることとして当てはまるものを選びましょう。



ベスト
アンサーはすべて

- ① 相手は女の子と言うけれど、本当に女の子かどうかは分からない。なりすましている可能性もある。今までのやりとりの中で、暴力的な発言や下品な発言があったのなら、今後の連絡を止め、親に伝えること。
- ② 親の同意なくSNSで知り合った友達に会いに行ってはいけない。
- ③ ハンドルネームでやりとりをし、自分の名前はもちろん、住んでいる地域や年齢など、個人情報の特定につながることは教えない。

この事例では、親が子どもにスマホを預けたままにし、使用アプリやその内容をチェックしていなかったために、危険な状態になっている事が分かります。被害者とならないために、様々なリスクを想定し、正しい判断ができるように何度も繰り返し事例を挙げながら子どもと話し合ひましょう。

「未成年者の携帯電話・スマートフォン利用実態調査2019年」（情報セキュリティメーカー デジタルアーツ社）の3～18歳未満の子どもを対象にした結果によると、SNSの利用率は全体で89.9%であり、最も高いのは中学女子で97.1%です。ネット上の友達がいるとの回答は40.1%で年々ポイントが上昇しています。その中で、「ネット上で話すうちに信用できると感じた」と答える中学生が最も高く73.0%です。被害者になってしまう中学生のネット上の事件は、「個人情報の漏洩」が43.5%で最も多く、その結果ストーカーされた事例もあります。他にアカウントを乗っ取られる、自分や友達の写真や動画を投稿される、写真を送らせられる、脅迫される、拉致、乱暴等も報告されています。



次へ

[目次に戻る](#)

解説

Q6 子どもがスマホ、ゲームばかりで会話がおろそかになり、対話できません。会話をしていてもスマホ画面を見ていて目も合わせず、単語でしか話しません。スマホを手放さず、親との会話は0（ゼロ）に等しいです。どう接すればいいのでしょうか？

- ① もうこの年代になると手遅れなのであきらめる。きっと思春期が終わったら対話できるようになるだろうから今はそっとしておく。
- ② ルール作りをしたにもかかわらず平気でルールを破っているのだから、スマホを取り上げる。
- ③ 「楽しいことをしよう、他のこともたまにはやってみよう。」と声をかけて誘ったり、新しい世界に飛び込ませたいと視野を広げさせる。



ベスト
アンサーは③

中学生であっても、興味・関心を引くような事象に目を向けられるように背中を押してあげることが必要になります。今のままで十分、スマホがあれば十分といった固まった考え方から視野を広げてあげることが新しい自己開拓につながります。そのきっかけや機会は大人数側で作り、根気強く提案してきましょう。

近い将来、人工知能（AI）によってたくさんの情報が提供されるようになります。様々なことがスマホで1台でできるようになる一方で、そのスマホをなくしたり忘れたりすると、何もできなくなってしまいます。スマホが無ければ何もできない子どもに育ててしまう前に、子どもがたくさんのことに興味・関心を持って視野を広げ、幅広く何事にも対応できるようにしたいものです。そのために、親自身も自分のフィールドを広げましょう。生き生きした親の姿に子どもは敏感に反応します。

中学生という年代になると、スマホを取り上げたり、諭したりしても手遅れになる場合があります。会話をしなかったり、コミュニケーションが取れなかったりと、子どもが社会的なつながりを持っていないのは、小さいうちからの生活や行動の仕方が大きく問われています。改善には時間と労力が必要であることを親は認識しましょう。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

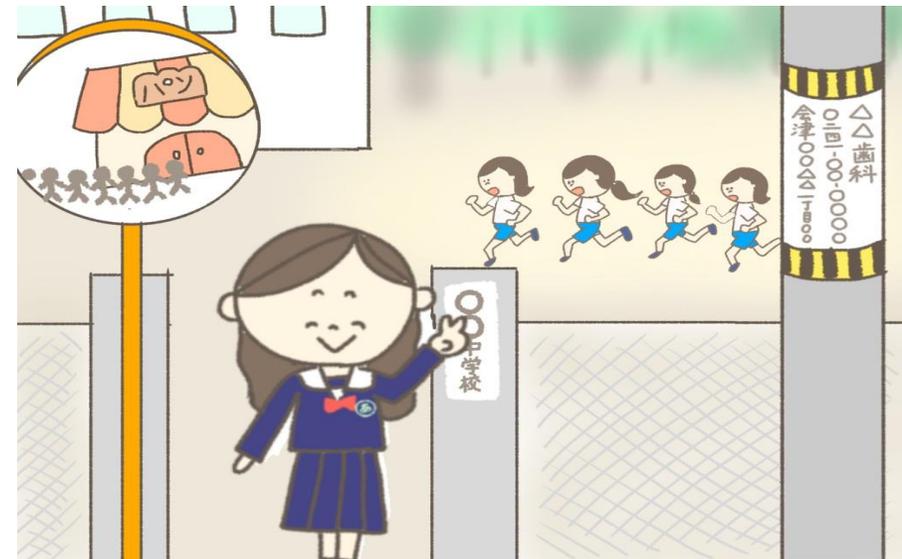
Q7 ある女子中学生が、下校時の様子をSNSに投稿した画像です。この画像から、個人情報特定される恐れがある危険なポイントを全て見つけて、その数を答えましょう。



危険なポイントは
6点です。

一見楽しそうな画像であっても、SNSに投稿してしまうと、画像から個人情報を読み取り、悪用しようとする人が必ずいます。この場合、個人情報特定される恐れのあるポイントは次の6点です。

- ① 学校の制服を着ている
- ② 後ろに学校指定の運動着を着て部活をしている
- ③ 胸に校章が入っていた
- ④ 校門にかすかに学校名が読み取れる
- ⑤ ミラーに有名なパン屋さんが写っていた
- ⑥ 電柱に住所と電話番号入りの△△歯科の案内宣伝がある



個人情報特定されてしまうことにより、自宅の周りをうろつく不審人物が現れたり、ストーカー被害に遭ったり、写真を悪用（合成）されて迷惑な画像をSNSにあげられたりします。最近では人工知能（AI）によって写っている人や場所を解析できる技術開発も進んでいるため、個人の特定までに時間を要さないようです。写真や動画の投稿について子どもと話し合い、危険性を共有することが大切です。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

Q8 子どものスマホをたまたま見たら、我が子の普段の書き込みが皆に不快を与えたく、LINEでいじめに遭っているような悪口がたくさん書かれました。その後は、我が子の書き込みに対しては、既読スルーされ無視されているようです。どう対応すればよいのでしょうか？



ベスト
アンサーは①

① まずは、親子でSNS等での書き込みのモラルについて話し合うことが大切です。顔が見えない相手とのやりとりは、普段の会話以上に気を遣わなければならないことを教えましょう。一度書き込んだら、拡散されて消去できないことも教えましょう。また、悪質な書き込みについてはアプリの管理者に削除してもらうことができますが、全てを削除することは難しいのが現状です。

- ① 事実を確認し、LINEの書き込みの消去を管理会社へ依頼する。不快を与えたくらいの書き込みも含め、子どもとスマホの使い方やネットモラルについて話し合う。
- ② 事実を確認し、明らかないじめなので学校で対応してもらおう。相手の親にも連絡する。
- ③ 自分がされたらどうするかを考えていない相手なので、その気持ちを知ってもらうためにも同じように書き込みをする。ケースバイケース。

② いじめかもしれないと思ったときは、その画面をスクリーンショットで撮影し、証拠として保存しておきましょう。ただし、スマホによるトラブルについては、スマホを与え、管理している親の責任です。学校に全ての対応を求めることは間違いです。家庭でしっかり話し合うとともに、関係する子どもの親同士で話し合う場を設け、問題の解決に当たることが大切です。ただし、学校に相談しておくことで、学校での子どもの様子や友達関係等を観察してもらうことはできます。LINEトラブルで不登校気味になる子もいるので注意しましょう。



③ 相手にやられたからやり返すでは、何の解決になりません。堂々巡りで悪化の一途をたどります。

[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q9 親自身がスマホの使い方や機能を理解しないまま子どもにスマホを与えているケースが多く見られます。スマホの与え方について正しいものを選びましょう。

- ① スマホの使い方を教えるより、使っているうちに慣れていろいろな使い方を覚えると思われる。とりあえず、使ってみることが大切。
- ② 親がアプリも含め、実際に使ってみて知識を身に付けてから子どもに与えるべき。
- ③ 与えるのは、スマホではなく道徳倫理。



ベスト
アンサーは②・③

- ② 子どもにスマホを与えるのであれば、第一に親が身に付けるべきものとしては、各種の設定方法です。フィルタリング機能、Wi-Fiの自動検知接続OFF機能、スクリーンタイム表示自動電源OFF機能など子どもを守るための設定ができます。設定を知らなければ、安全機能を設定しないまま預けてしまったり、子どもに設定を解除されてしまったりすることもあり、子どものやりたい放題になってしまいます。親が子どもにアプリのダウンロードをしてもらったり、使い方を聞いたりしているということもよく耳にします。
- ③ スマホを与える前に道徳倫理や、ネットモラルなどを身に付けさせるべきです。SNSなどの不特定多数の人が利用するために情報漏洩等の怖さも教えなければなりません。親自身がしっかりと子どもにスマホ用語や使い方を説明できるかが鍵です。

- ① 使っているうちに覚えるだろうという考えは安易で危険です。いろいろ試しているうちに、個人情報漏れていたり、悪質なサイトに引っかかったりと、常に危険な状態でスマホを使用していることになります。



[目次に戻る](#)

[次へ](#)

解説

Q10 スマホのメリットとデメリットを3つずつ挙げましょう。



【メリット？ デメリット？】

- ・ 知りたい情報を即座に得ることができる⇔情報過多で、どの情報を信用すべきか分からない。
- ・ 連絡ツールとして便利⇔連絡以外の掲示板になっている。
- ・ 音楽を聴いたり、読書が手近にできる⇔著作権や違法ダウンロードが多い。
- ・ 自宅や出先で仕事ができる⇔家にこもる、仕事上の情報が持ち出されて危険。
 - ・ ・ ・ 挙げれば切りがありません。

上記のように、スマホ一つでできることは無数にあります。しかし裏を返せばその分危険なリスクがあることも知っておかなければなりません。利便性の背後にある問題を常に意識し、子どもも親も「スマホ廃人」とならないようにしていかなければなりません。これからの予測不能な社会を生き抜くためには子どもたちに真の「生きる力」を養う必要があります。

どれほど時代が変わろうと、根底で変わらないもの・普遍的なものが必ずあります。優しさや思いやり、健やかな体、挑戦や努力を続けるたくましさ等、普遍的な子どもの育ちをしっかりと支える基盤は家庭です。親自身が「スマホ・SNS活用の上級者」となり、スマホやSNSを上手に活用できる子どもを育てていきましょう。

[目次に戻る](#)

次へ

ステージ 1

Q1	
Q2	
Q3	
Q4	
Q5	
Q6	
Q7	
Q8	



せいかいしたかずは...



なまえ _____

[目次に戻る](#)

ステージ2

Q1	
Q2	
Q3	
Q4	
Q5	
Q6	
Q7	
Q8	
Q9	
Q10	



正解数は...



名 前 _____

[目次に戻る](#)

ステージ3

Q1	
Q2	
Q3	
Q4	
Q5	
Q6	
Q7	
Q8	
Q9	
Q10	



正解数は...



名 前 _____

[目次に戻る](#)